

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第139集

しま ざき い せき
島 崎 遺 跡

で ん ぽ う じ ほ ん ご う い せ き
伝法寺本郷遺跡

な か の ご う き た い せ き
中之郷北遺跡

2006

(財)愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター



巻頭写真1 遺跡遠景1

- 1：鳥崎遺跡と伝法寺本郷遺跡（南上空から木曽川方面を臨む）
- 2：伝法寺本郷遺跡と宇福寺遺跡（北上空から伊勢湾方面を臨む）



巻頭写真2 遺跡遠景2

1：宇福寺遺跡と中之郷北遺跡（南上空から木曽川方面を臨む）

2：中之郷北遺跡と朝日遺跡（北上空から伊勢湾方面を臨む）



巻頭写真3 伝法寺本郷遺跡の遺構と遺物

1：C区小区画水田（古墳時代に帰属すると推定）

2：D区古代出土遺物（折戸10号窯式期の典型的な組成、金属製品生産関連遺物が伴う）



巻頭写真4 中之郷北遺跡の調査

1：A区NR01の調査（南北に縦断する河川と杭列、7世紀に急速に埋没）

2：C区堆積状況（現地表からV層までの堆積状況）



巻頭写真5 中之郷北遺跡の遺構

1：H区SU04全景（IV d層で検出、松河戸Ⅰ式の良好な一括資料が出土）

2：I区古墳時代中期～古代竪穴住居群（5世紀前半、5世紀後半、7世紀前半、8世紀後半の竪穴住居が重複）



1



2

巻頭写真6 中之郷北遺跡の遺物1

1：各調査区IV b・IV a層出土遺物（松河戸Ⅰ式後半～松河戸Ⅱ式前半の土器に鍛冶関連遺物が伴出）

2：H区IV d・IV c層出土土器（松河戸Ⅰ式前半の良好な層位資料）



1



2

巻頭写真7 中之郷北遺跡の遺物2

1：I区から出土した古墳時代中期の土器（松河戸Ⅱ式～宇田Ⅱ式の資料）

2：古代の出土遺物（D・I区から出土した8世紀の資料）



巻頭写真8 宇福寺遺跡の土器

立会調査時に採集した集合資料、月影式の器台、箱清水式の甕、線刻土器、大型壺など特徴的な個体が多い

序

濃尾平野を南北に縦断する国道 22 号線は、愛知と岐阜をつなぐ幹線道路として近代以降重要な位置を占めてきました。また過去においても美濃街道や岐阜街道などとして、尾張と美濃との関係だけではなく、この地方全域にわたっての物資や情報の主要動脈としての役割を担ってきました。

今回これらの役割をさらに推し進める目的で、名古屋高速 3 号線（県道高速清州一宮線）の建設が行われることとなりました。それを受け私ども（財）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターは、愛知県教育委員会の委託事業として、平成 12 年度には島崎遺跡、平成 13 年度には伝法寺本郷遺跡と中之郷北遺跡の発掘調査を行ってまいりました。一宮市から西春町までという広範囲での調査ではありましたが、島崎遺跡では中世の集落が、伝法寺本郷遺跡では古代から中世の集落・水田が、中之郷北遺跡では古墳時代の集落が見つかるとともに、濃尾平野における遺跡の形成過程や地形環境の変化が明らかになりました。今後、本書の成果が学術的に活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、地元住民の皆様をはじめ、関係者及び関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚く御礼を申し上げます。

平成 18 年 3 月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 古池 庸男

例 言

1. 本書は、愛知県一宮市に所在する島崎遺跡（県遺跡番号 02107：愛知県教育委員会 1994『愛知県遺跡地図（Ⅰ）尾張地区』）、伝法寺本郷遺跡（県遺跡番号 02108）、愛知県西春日井郡西春町中之郷北遺跡（県遺跡番号 19016）の発掘調査報告書で、西春日井郡西春町・一宮市宇福寺遺跡（県遺跡番号 19017・02114）の立会調査概要も同時に収録した。
2. 発掘調査は、県道高速清洲一宮線建設にかかる事前調査として、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター（当時、現財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。なお、発掘調査にあたって、株式会社四門（島崎遺跡）、リメックス株式会社（当時、現テイケイトレード株式会社、伝法寺本郷遺跡）、佐伯建設工業株式会社（伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡）より支援を受けた。
3. 調査期間と調査面積、調査担当者は、別表に示した（Ⅰ—第 2 章—第 2 表）。
4. 発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター 名古屋高速道路公社
一宮市教育委員会 西春町教育委員会
5. 報告書作成にかかる整理作業には、次の方々のご助力を得た。
河合明美・安達崇子（調査研究補助員） 伊藤弘江 黒川陽子 時田典子 水野留香（整理補助員）
なお、出土遺物の写真撮影は、金子和久氏（写真工房・遊）、福岡栄氏（スタジオ・ピュア）に委託した。
6. 発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏をはじめ、多くの方々からご指導、ご協力を得た。
青木一男 青木勘時 岩原 剛 加納俊介 小池香津江 城ヶ谷和広 鈴木とよ江 田口一郎 土本典生
原田 幹 藤澤良祐 北條献示 森 泰通 若狭 徹
7. 本書の執筆は、Ⅰ、Ⅲ—第 1～3・5 章、Ⅳ—第 1～3 章・第 4 章（8）～（10）、第 5 章、Ⅴを早野浩二（本センター調査研究員）、Ⅱを宮腰健司（本センター主査）、Ⅲ—第 4 章（1）、Ⅳ—第 4 章（1）を山形秀樹（株式会社パレオ・ラボ）、Ⅲ—第 4 章（2）、Ⅳ—第 4 章（6）を植田弥生（株式会社パレオ・ラボ）、Ⅲ—第 4 章（3）を鶴飼雅弘（本センター調査研究員）、Ⅳ—第 4 章（2）を馬場健司・辻本裕也（パリノ・サーヴェイ株式会社）、（3）をパレオ・ラボ AMS 年代測定グループ、（4）を藤根久・長友純子（株式会社パレオ・ラボ）、（5）を小村美代子（株式会社パレオ・ラボ）、（7）を森勇一（愛知県立津島東高校）が担当した。
8. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。
S K；土坑、S E；井戸、S B；建物、S A；柵、S T；耕作地（水田・畑地）
S D；溝、S U；遺物集積、N R；自然流路、S X；その他不明遺構
9. 発掘調査および本書で使用了座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠した。ただし、旧標準の「日本測地系」で表記している。
10. 本書で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。
11. 発掘調査の記録（実測図、写真等）は、財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
12. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センター（愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田字野方 802-24）で保管している。
13. 本書の編集はⅠ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴを早野浩二、Ⅱを宮腰健司が担当した。

目 次

巻頭写真

I	前章	1
	第1章 調査の経緯	2
	第2章 調査の経過	4
	第3章 周辺の環境	6
II	島崎遺跡	11
	第1章 遺跡の環境	12
	第2章 調査の概要	12
	第3章 遺構・遺物	15
	第4章 まとめ	49
III	伝法寺本郷遺跡	55
	第1章 調査の概要	56
	第2章 基本層序と検出遺構	58
	第3章 遺構と遺物	60
	第4章 分析・考察	92
	第5章 まとめ	104
IV	中之郷北遺跡	107
	第1章 調査の概要	108
	第2章 基本層序と検出遺構	110
	第3章 遺構と遺物	114
	第4章 分析・考察	220
	第5章 まとめ	294
V	宇福寺遺跡の調査	299
	第1章 調査の経緯	300
	第2章 立会調査の概要	304
	第3章 採集遺物の概要	310
	第4章 考察	331
	第5章 まとめ	348

報告書抄録

巻頭図版目次

巻頭写真 1	遺跡遠景 1	巻頭写真 5	中之郷北遺跡の遺構
巻頭写真 2	遺跡遠景 2	巻頭写真 6	中之郷北遺跡の遺物 1
巻頭写真 3	伝法寺本郷遺跡の遺構と遺物	巻頭写真 7	中之郷北遺跡の遺物 2
巻頭写真 4	中之郷北遺跡の調査	巻頭写真 8	宇福寺遺跡の土器

挿図目次

〈Ⅰ 前章〉	第 29 図	E 区第 2 面遺構図
第 1 図 遺跡の位置	第 30 図	E 区東壁・北壁土層断面図
第 2 図 試掘地点と調査遺跡	第 31 図	E 区出土遺物実測図
第 3 図 権現山遺跡の縄文土器	第 32 図	F 区 SK51・52 土層断面
第 4 図 伝西大門遺跡の須恵器	第 33 図	F 区第 1 面遺構図
第 5 図 周辺の遺跡分布	第 34 図	F 区第 2 面遺構図
第 6 図 遺跡周辺の地形	第 35 図	F 区東壁・北壁土層断面図
〈Ⅱ 島崎遺跡〉	第 36 図	F 区出土銭貨拓本・X線写真
第 7 図 遺跡周辺地形図	第 37 図	F 区出土遺物実測図
第 8 図 調査区位置図	第 38 図	G 区出土遺物実測図
第 9 図 A 区 SD04・05・06・07 土層断面	第 39 図	G 区第 1 面遺構図
第 10 図 A 区第 1 面遺構図	第 40 図	G 区第 2 面遺構図
第 11 図 A 区第 2 面遺構図	第 41 図	G 区西壁・北壁土層断面図
第 12 図 A 区東壁・南壁土層断面図	第 42 図	H 区出土遺物実測図
第 13 図 A 区出土遺物実測図	第 43 図	H 区第 2 面遺構図
第 14 図 B 区 SX01 土層断面	第 44 図	H 区西壁・南壁土層断面図
第 15 図 B 区第 1 面遺構図	第 45 図	I 区第 1 面遺構図
第 16 図 B 区第 2 面遺構図	第 46 図	I 区第 2 面遺構図
第 17 図 B 区東壁・南壁土層断面図	第 47 図	I 区第 3 面遺構図
第 18 図 B 区出土遺物実測図	第 48 図	I 区東壁・北壁土層断面図
第 19 図 C 区第 1 面遺構図	第 49 図	I 区 SD01 土層断面
第 20 図 C 区第 2 面遺構図	第 50 図	I 区 SD02・03 土層断面
第 21 図 C 区東壁・南壁土層断面図	第 51 図	I 区出土遺物実測図 1
第 22 図 D 区第 2 面遺構図	第 52 図	I 区出土遺物実測図 2
第 23 図 D 区東壁・北壁土層断面図	第 53 図	J 区第 1 面遺構図
第 24 図 D 区 SK14、SK09・47・51・52 土層断面	第 54 図	J 区第 2 面遺構図
第 25 図 D 区 SK30、SK05、SK34 土層断面	第 55 図	J 区東壁・南壁土層断面図
第 26 図 D 区出土遺物実測図	第 56 図	J 区出土遺物実測図
第 27 図 E 区 SK04、SK05 土層断面	第 57 図	明治 17 年地籍図
第 28 図 E 区第 1 面遺構図	第 58 図	加工円盤分布図

第 59 図 島崎遺跡主要遺構配置図

〈Ⅲ 伝法寺本郷遺跡〉

第 60 図 試掘調査の所見

第 61 図 伝法寺本郷遺跡調査区配置図

第 62 図 伝法寺本郷遺跡検出遺構の概要

第 63 図 伝法寺本郷遺跡調査区土層断面柱状図

第 64 図 A 区東壁土層断面図

第 65 図 A 区下面遺構図

第 66 図 A 区古代出土遺物実測図

第 67 図 A 区遺構土層断面図

第 68 図 A 区上面遺構図

第 69 図 A 区中世～近世出土遺物実測図

第 70 図 A 区出土金属製品生産関連遺物実測図

第 71 図 B 区東壁土層断面図

第 72 図 B 区遺構土層断面図

第 73 図 B 区遺構図

第 74 図 B 区出土遺物実測図

第 75 図 C 区東壁土層断面図

第 76 図 C 区遺構図

第 77 図 C 区出土遺物実測図

第 78 図 D 区東壁土層断面図

第 79 図 D 区遺構図

第 80 図 D 区 SB01 遺構図・遺物出土状態図

第 81 図 D 区 SB02 遺物出土状態図

第 82 図 D 区 SB02 土層断面図

第 83 図 D 区 SK02 遺構図

第 84 図 D 区出土遺物実測図

第 85 図 八王子遺跡出土鋳型（内型）実測図

第 86 図 D 区出土金属製品生産関連遺物実測図

第 87 図 E 区遺構図

第 88 図 E 区東壁土層断面図

第 89 図 E 区出土遺物実測図

第 90 図 F 区西壁土層断面図

第 91 図 F 区出土遺物実測図

第 92 図 F 区遺構図

第 93 図 G 区東壁土層断面図

第 94 図 G 区下面遺構図

第 95 図 G 区上面遺構図

第 96 図 G 区出土遺物実測図

第 97 図 伝法寺本郷遺跡調査区と地籍図の照合

第 98 図 丹羽郡伝法寺村絵図

第 99 図 春日井郡宇福寺村絵図

第 100 図 伝法寺本郷遺跡の景観復原

〈Ⅳ 中之郷北遺跡〉

第 101 図 試掘調査の所見

第 102 図 中之郷北遺跡調査区配置図

第 103 図 中之郷北遺跡検出遺構の概要

第 104 図 中之郷北遺跡調査区土層断面柱状図 1

第 105 図 中之郷北遺跡調査区土層断面柱状図 2

第 106 図 A 区東壁土層断面図

第 107 図 A 区 NR01 遺構図

第 108 図 A 区 NR01- 3 層杭列遺構図 1

第 109 図 A 区 NR01- 3 層杭列遺構図 2

第 110 図 A 区 NR01 遺物出土状況

第 111 図 A 区 NR01-4 層出土遺物実測図

第 112 図 A 区 NR01- 3 層出土遺物実測図

第 113 図 A 区 NR01- 3 層出土木製品実測図

第 114 図 A 区 I 層・SD04 出土遺物実測図

第 115 図 A 区中世～近世遺構図

第 116 図 B a 区東壁土層断面図

第 117 図 B a 区 NR03・01 遺構図

第 118 図 B a 区中世～近世遺構図

第 119 図 B a 区出土遺物実測図

第 120 図 B b 区古墳時代初頭遺構図

第 121 図 B b 区東壁土層断面図

第 122 図 B b 区古墳時代中期遺構図

第 123 図 B b 区 SU01 遺物出土状態図

第 124 図 B b 区出土遺物実測図

第 125 図 C 区西壁土層断面図

第 126 図 C 区古墳時代初頭遺構図

第 127 図 C 区古代遺構図

第 128 図 C 区近世遺構図 1

第 129 図 C 区出土遺物実測図

第 130 図 D 区西壁土層断面図

第 131 図 D 区古墳時代初頭・古墳時代後期遺構図

第 132 図 D 区古墳時代出土遺物実測図

第 133 図 D 区古代遺構図

第 134 図 D 区 SB03 遺構図

第 135 図	D 区 SB03 竈遺構図	第 174 図	I 区西壁土層断面図
第 136 図	D 区 SB03 支脚	第 175 図	I 区古墳時代中期遺構図
第 137 図	D 区 SB01・02 遺構図	第 176 図	I 区古墳時代中期～古代遺構図
第 138 図	D 区 SB04 遺構図	第 177 図	I 区 SB09・03 遺構図
第 139 図	D 区 SB05 遺構図	第 178 図	I 区 SB10 遺構図／遺物出土状態図
第 140 図	D 区 SB06・07・08 遺構図	第 179 図	I 区 SB07 遺物出土状態図
第 141 図	D 区中世遺構図	第 180 図	I 区 SK54・80 遺物出土状態図
第 142 図	D 区古代出土遺物実測図	第 181 図	I 区古墳時代出土遺物実測図 1
第 143 図	E 区西壁土層断面図	第 182 図	I 区古墳時代出土遺物実測図 2
第 144 図	E 区古代遺構図	第 183 図	I 区 SB08・06 遺構図
第 145 図	E 区Ⅳ層・Ⅱ層出土遺物実測図	第 184 図	I 区 SB05・04・02 遺構図
第 146 図	E 区出土石製品実測図	第 185 図	I 区 SB02 竈遺構図
第 147 図	E 区中世～近世遺構図	第 186 図	I 区 SB01 遺構図
第 148 図	F 区西壁土層断面図	第 187 図	I 区古墳時代中期～古代遺構変遷図
第 149 図	F 区古代～中世遺構図	第 188 図	I 区古代出土遺物実測図 1
第 150 図	F 区近世遺構図	第 189 図	I 区古代出土遺物実測図 2
第 151 図	F 区出土遺物実測図	第 190 図	I 区古代出土遺物実測図 3
第 152 図	F 区北壁土層断面図	第 191 図	I 区古代出土遺物実測図 4
第 153 図	D・E・F 区古墳時代水田遺構全体図	第 192 図	I 区中世遺構図
第 154 図	D・E・F 区古墳時代水田遺構図	第 193 図	I 区中世出土遺物実測図
第 155 図	G 区西壁土層断面図	第 194 図	I 区鉄製品・金属製品生産関連遺物実測図
第 156 図	G 区古墳時代中期／中世遺構図	第 195 図	J 区東壁土層断面図
第 157 図	G 区近世遺構図	第 196 図	J 区古代遺構図
第 158 図	G 区出土遺物実測図	第 197 図	J 区近世～近代遺構図
第 159 図	G 区出土金属製品実測図	第 198 図	J 区出土遺物実測図
第 160 図	H 区西壁土層断面図	第 199 図	J 区出土石製品・金属製品実測図
第 161 図	H 区古墳時代初頭遺構図	第 200 図	K 区西壁土層断面図
第 162 図	H 区 SU04 遺構図・遺物出土状態図	第 201 図	K 区近世～近代遺構図
第 163 図	H 区 SU01～03 遺構図・遺物出土状態図	第 202 図	K 区出土遺物実測図
第 164 図	H 区 SU04・Ⅴ層出土遺物実測図	第 203 図	調査地点の層序および分析層準
第 165 図	H 区Ⅳc 層・Ⅳb 層・SU01～03 出土遺物実測図	第 204 図	B a・B b 区の植物珪酸体含量
第 166 図	SD44 土層断面図	第 205 図	D・E 区の植物珪酸体含量
第 167 図	H 区古代遺構図	第 206 図	F・G 区の植物珪酸体含量
第 168 図	H 区中世遺構図	第 207 図	H・K 区の植物珪酸体含量
第 169 図	H 区近世遺構図	第 208 図	測定試料実測図
第 170 図	H 区近代遺構図	第 209 図	胎土分析試料実測図
第 171 図	H 区古墳時代後期～古代出土遺物実測図	第 210 図	赤色顔料の蛍光 X 線スペクトル図
第 172 図	H 区Ⅰ層・中世～近代出土遺物実測図	第 211 図	月縄手遺跡土坑
第 173 図	H 区出土石製品・鉄製品・金属製品生産関連遺物実測図	第 212 図	H 区Ⅳ層中の土器群包含状況

第 213 図	H 区Ⅳ層出土土器群の組成	第 245 図	P 83 工区土器分布状況模式図
第 214 図	中之郷北遺跡Ⅳ層層位資料と月縄手遺跡土坑資料との対比	第 246 図	P 82 工区土器分布状況模式図
第 215 図	S 字甕口縁部形状の比較	第 247 図	P 80 工区土器分布状況模式図
第 216 図	高杯杯部稜径と稜深比の比較	第 248 図	調査区土層断面柱状図 1
第 217 図	松河戸遺跡 SK201 出土土器	第 249 図	調査区土層断面柱状図 2
第 218 図	I 区出土土器の変遷	第 250 図	P 86 工区採集遺物実測図
第 219 図	八王子遺跡 NR01 最上層出土土器	第 251 図	P 84 工区採集遺物実測図
第 220 図	朝日遺跡新資料館地点出土土器	第 252 図	P 83 工区採集遺物実測図 1
第 221 図	朝日遺跡各地点出土土器	第 253 図	P 83 工区採集遺物実測図 2
第 222 図	鍛冶関連遺物出土遺跡の分布	第 254 図	P 83 工区採集遺物実測図 3
第 223 図	中之郷北遺跡の轆羽口と関連資料	第 255 図	P 83 工区採集遺物実測図 4
第 224 図	福田遺跡の鍛冶関連遺物と出土遺構	第 256 図	P 83 工区採集遺物実測図 5
第 225 図	法海寺遺跡の鍛冶関連遺物と関連資料	第 257 図	P 83 工区採集遺物実測図 6
第 226 図	吉田奥遺跡 3 号住居跡と出土遺物	第 258 図	P 82 工区採集遺物実測図 1
第 227 図	門間沼遺跡の鍛冶関連遺物と関連資料	第 259 図	P 82 工区採集遺物実測図 2
第 228 図	大泉遺跡の轆羽口	第 260 図	P 82 工区採集遺物実測図 3
第 229 図	石川条里遺跡の轆羽口	第 261 図	P 81 工区採集遺物実測図
第 230 図	轆羽口の形態の変遷	第 262 図	P 80 工区採集遺物実測図 1
第 231 図	尾張地域における古墳時代中期の轆羽口の変遷	第 263 図	P 80 工区採集遺物実測図 2
第 232 図	四反畑遺跡と大泉遺跡の韓式系土器甌	第 264 図	廻間 I 式 0 ～ 1 段階の土器
第 233 図	権現山 1 号墳の石室	第 265 図	宇福寺遺跡器種組成（遺跡総計）
第 234 図	中之郷北遺跡と大淵遺跡の管状土鍾	第 266 図	宇福寺遺跡器種組成（各工区・遺構）
第 235 図	飯守神遺跡の「美濃」刻印須恵器	第 267 図	関連遺跡分布図
第 236 図	美濃須衛産須恵器の諸例	第 268 図	箱清水式の主要器種
第 237 図	三河型甕の諸例と関連資料	第 269 図	宇福寺遺跡と小森遺跡の箱清水式土器
第 238 図	川原石積み横穴式石室・「美濃」刻印須恵器・三河型甕・製塩土器の分布	第 270 図	箱清水式土器様式圏における東海系土器
第 239 図	中之郷北遺跡の景観復原	第 271 図	北陸系土器と関連資料
第 240 図	中之郷北遺跡調査区と地籍図の照合	第 272 図	布留式土器と関連資料
第 241 図	春日井郡中之郷村絵図	第 273 図	受口甕と S 字甕 0 類
〈V 宇福寺遺跡の調査〉		第 274 図	朝日遺跡の布留式甕
第 242 図	試掘調査の所見	第 275 図	畿内における東海系と山陰系の共存
第 243 図	宇福寺遺跡立会調査工区―北半	第 276 図	宇福寺遺跡と元屋敷遺跡の土器に施された線刻
第 244 図	宇福寺遺跡立会調査工区―南半	第 277 図	宇福寺遺跡の範囲と周辺の遺跡

写真目次

〈Ⅰ 前章〉

写真 1 遺跡の現況

写真 2 馬見塚遺跡

写真 3 稲荷山古墳と高塚古墳

写真 4 現況の島畑

〈Ⅱ 島崎遺跡〉

写真 5 調査区の位置

写真 6 調査区遠景

写真 7 調査風景

写真 8 A区

写真 9 B区

写真 10 C区

写真 11 D区

写真 12 E区

写真 13 F区

写真 14 G区

写真 15 H区

写真 16 I区第1面

写真 17 I区第2面

写真 18 I区第3面

写真 19 J区

写真 20 各調査区出土遺物 1

写真 21 各調査区出土遺物 2

〈Ⅲ 伝法寺本郷遺跡〉

写真 22 伝法寺本郷遺跡調査風景

写真 23 A区NR01

写真 24 A区上面遺構

写真 25 B区NR01／上面遺構

写真 26 C区下面／上面遺構

写真 27 D区遺物出土状況

写真 28 D区古代遺構

写真 29 D区出土金属製品生産関連遺物

写真 30 E～G区全景／E区下面／上面遺構全景

写真 31 F区下面／上面遺構

写真 32 G区下面／上面遺構全景

写真 33 各調査区出土遺物

写真 34 A区NR01出土自然木の材組織光学顕微鏡写真 1

写真 35 A区NR01出土自然木の材組織光学顕微鏡写真 2

写真 36 A区NR01出土自然木の材組織光学顕微鏡写真 3

〈Ⅳ 中之郷北遺跡〉

写真 37 中之郷北遺跡調査風景

写真 38 A区NR01

写真 39 A区出土遺物

写真 40 A区出土木製品

写真 41 A区NR01遺物出土状況

写真 42 A区土層断面／中世～近世遺構

写真 43 B a 区土層断面／NR01／中世～近世遺構

写真 44 B b 区古墳時代初頭遺構／SU01

写真 45 古墳時代初頭遺構

写真 46 C区西壁土層断面

写真 47 C区古代／近世遺構全景

写真 48 B a ・ B b ・ C区出土遺物

写真 49 D区古墳時代初頭／古墳時代後期遺構全景

写真 50 D区IV b 層遺物出土状況

写真 51 D区古代／中世遺構

写真 52 D区出土遺物

写真 53 E区古墳時代／古代／中世～近世遺構

写真 54 D区古墳時代水田全景

写真 55 F区古墳時代／古代～中世遺構

写真 56 G区NR02／NR01／近世遺構／土層断面

写真 57 G区出土金属製品X線写真

写真 58 E ・ F ・ G区出土遺物

写真 59 H区古墳時代初頭／前期遺構

写真 60 H区古墳時代中期遺構

写真 61 H区古代／中世／近世／近代遺構全景

写真 62 H区出土遺物 1

写真 63 H区出土遺物 2

写真 64 I区NR01全景

写真 65 I区古墳時代中期～古代遺構全景

写真 66 I区 1 期竪穴住居

写真 67 I区 2 期竪穴住居

写真 68 I区土坑遺物出土状況

写真 69 I区古墳時代（1・2期）出土遺物

写真 70 I区 3 期竪穴住居

写真71	I区4期竪穴住居1	写真89	出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真5
写真72	I区4期竪穴住居2	写真90	出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真6
写真73	I区中世遺構全景	写真91	福田遺跡の韃羽口先端部分
写真74	I区古代・中世出土遺物	写真92	法海寺遺跡の韃羽口
写真75	鉄製品・金属製品生産関連遺物・石製品		〈V 宇福寺遺跡の調査〉
写真76	J区東壁土層断面	写真93	宇福寺遺跡調査風景
写真77	J区古代／近世遺構全景	写真94	P83工区土層断面／遺物出土状況
写真78	J区中世～近代遺構全景	写真95	P82工区土層断面
写真79	K区近世～近代遺構／土層断面	写真96	P81／P80工区土層断面
写真80	植物珪酸体顕微鏡写真1	写真97	布留式高杯（5）の製作技法
写真81	植物珪酸体顕微鏡写真2	写真98	P83工区採集遺物1
写真82	土器薄片の顕微鏡写真	写真99	P83工区採集遺物2
写真83	赤色顔料の付着状況	写真100	P83工区採集遺物3
写真84	測定に使用した赤色顔料	写真101	P82工区採集遺物1
写真85	出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真1	写真102	P82工区採集遺物2
写真86	出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真2	写真103	P80工区採集遺物
写真87	出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真3	写真104	脚頂部のキザミ（門間沼遺跡）
写真88	出土材・杭の材組織光学顕微鏡写真4		

挿表目次

〈Ⅰ 前章〉	第12表	放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果
第1表 調査工程表	第13表	出土土器の詳細とその肉眼的特徴
〈Ⅱ 島崎遺跡〉	第14表	出土土器の粘土と砂粒の特徴
第2表 F区出土銭貨一覧表	第15表	胎土中の岩石片の分類と組み合わせ
〈Ⅲ 伝法寺本郷遺跡〉	第16表	赤色顔料から検出された元素と顔料の種類
第3表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果	第17表	出土木製品・木材の樹種同定結果一覧
第4表 A区 NR01 出土自然木樹種同定結果一覧	第18表	形状・層位ごとの検出樹種集計
〈Ⅳ 中之郷北遺跡〉	第19表	中之郷北遺跡から産出した昆虫化石
第5表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果	第20表	H区Ⅳ層出土土器群の組成
第6表 分析試料一覧	第21表	松河戸・宇田式土器編年と放射性炭素年代測定値との対比
第7表 B a・B b 区の植物珪酸体分析結果	第22表	鍛冶関連遺物一覧表
第8表 D・E 区の植物珪酸体分析結果	〈Ⅴ 宇福寺遺跡の調査〉	
第9表 F・G 区の植物珪酸体分析結果	第23表	編年対照表
第10表 H・K 区の植物珪酸体分析結果	第24表	宇福寺遺跡器種組成表（遺跡総計）
第11表 測定試料及び処理	第25表	宇福寺遺跡器種組成表（各工区・遺構）

I 前章

第1章 調査の経緯

遺跡

島崎遺跡は一宮市島崎2丁目ほか、伝法寺本郷は一宮市丹陽町伝法寺、中之郷北遺跡は西春日井郡西春町中之郷にそれぞれ所在する（第1図）。遺跡周囲には、宅地、工業地、商業地が密集し、耕作地が点在する大都市近郊に特徴的な景観が広がっている。

名古屋高速3号線

これらの3遺跡は、名古屋高速3号線（県道高速清洲一宮線）建設計画に伴う埋蔵文化財の有無照会に応じて、平成10年8～10月に愛知県教育委員会文化財課（当時、現愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室）と愛知県埋蔵文化財調査センターが一般国道22号線の周辺において試掘調査を実施した結果、新たに発見、登録された遺跡である。

試掘調査

名古屋高速3号線建設にかかる試掘調査は、全長約8kmの予定工区周辺に、A—1からN—2までの28地点を設置し（第2図）、中世陶器を包含する層を確認したK—2を含む周辺地区、H—2・H—3を含む地区、古墳時代の遺構と遺物を確認したE—2を含む周辺地区について、発掘調査が必要であることを回答した。なお、L—1・L—2を含む地区、J—1・J—2を含む地区、H—1を含む地区、F—1・G—1を含む地区、C—1・C—2を含む地区については、試掘調査において遺構が確認されず、包含層が希薄であったことから、立会調査による対応とし、その他の地区の周辺は、遺構と遺物が確認されなかったことから、保護法上支障がないものと判断された。試掘調査によって所在を確認した埋蔵文化財は、該当教育委員会との協議によって、K—2周囲を島崎遺跡（遺跡番号02107）、H—2・H—3周囲を伝法寺本郷遺跡（遺跡番号02108）、E—2周囲を中之郷北遺跡（遺跡番号19016）として決定し、新発見の遺跡として新規に登録した。なお、宇福寺遺跡（西春日井郡西春町宇福寺他、遺跡番号19017・02114）は、立会調査が必要とされたH—1、F—1・G—1を含む地区の工事掘削時に古墳時代の遺物が大量に発見されたことを受け、新規に登録された遺跡である。

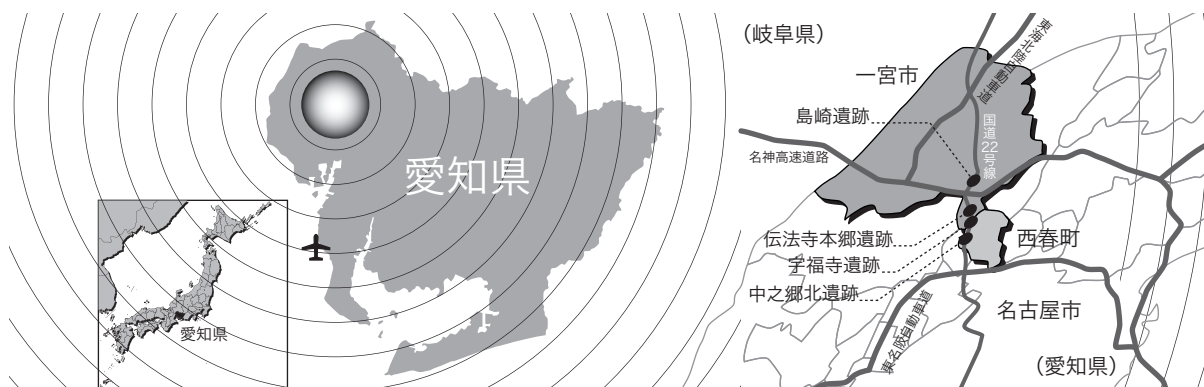
宇福寺遺跡

発掘調査

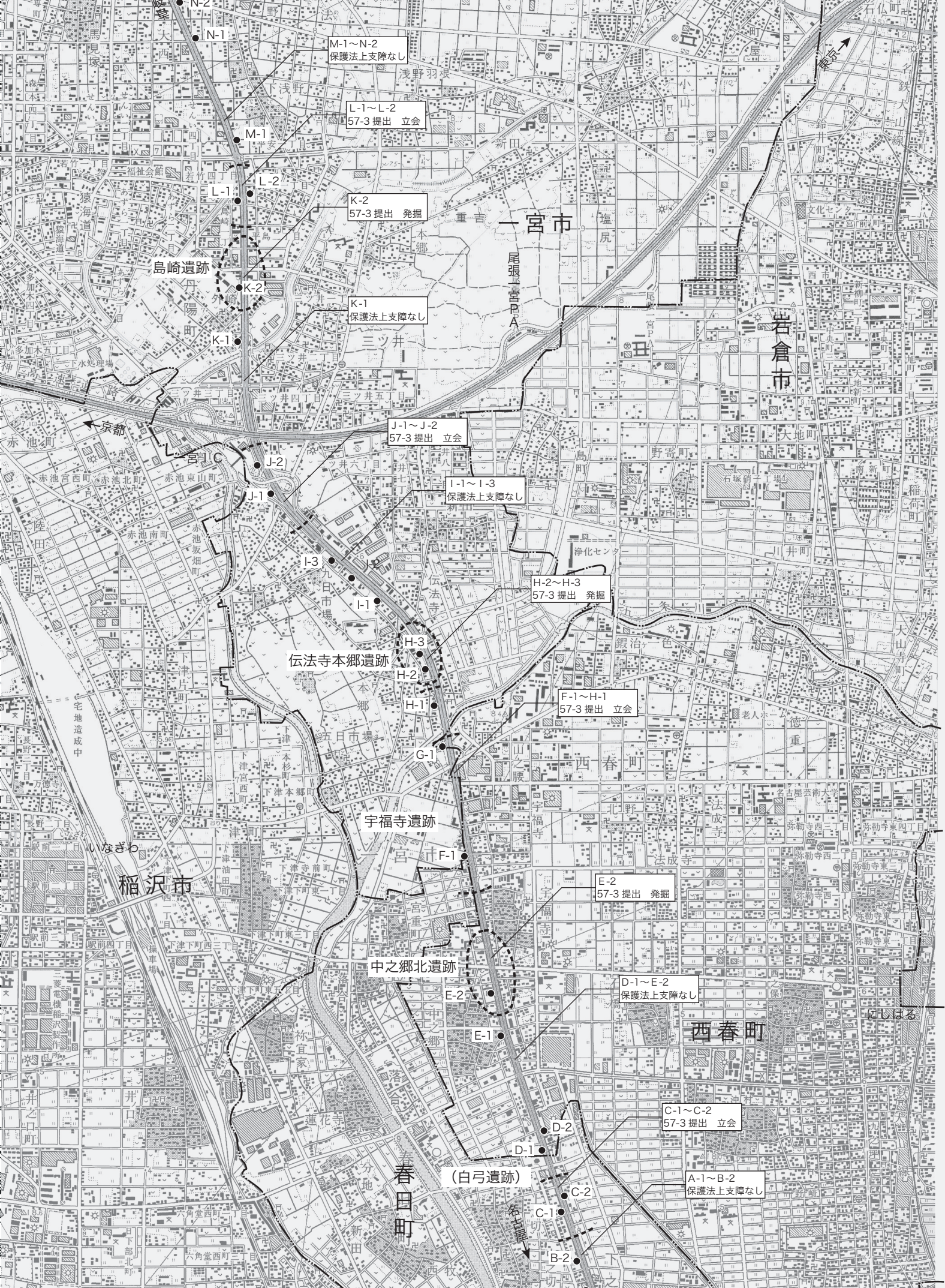
発掘調査は、県道高速清洲一宮線建設の事前調査として、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター（当時、現財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター）が実施した。

文献

愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター2000『愛知県埋蔵文化財情報』15 平成10年度



第1図 遺跡の位置



第2図 試掘地点と調査遺跡 (1:25,000)

第2章 調査の経過

調査区の設定

名古屋高速3号線は、一般国道22号線に高架構造で併設されるため、発掘調査は橋脚建設に際して、掘削工事に影響を受ける範囲を調査対象として、各工区に調査区を設定した。各遺跡において調査対象とした調査区と調査面積、調査期間はそれぞれ、島崎遺跡が10工区（P137～128／A～J区）計2,000㎡、平成13年1～3月、伝法寺本郷遺跡が7工区（P96～90／A～G区）計1,600㎡、平成13年4～5・8～9月、中之郷北遺跡が12工区（P65～55・A63／A、Ba・Bb、C～K）計2,400㎡、平成13年10月～平成14年2月である（第1表）。なお、各遺跡の調査概要については、各報文中において改めて記述する。

調査の工程

報告書作成

洗浄、注記までの整理作業は、平成12・13年度中に実施し、接合、復元、実測、写真撮影、収納等の整理作業と報告書の執筆、編集は、島崎遺跡を平成17年4～6月の3ヶ月、伝法寺本郷遺跡を平成17年5月の1ヶ月、中之郷北遺跡と宇福寺遺跡を平成17年6～9月の4ヶ月の期間内に実施し、平成18年3月に本書を刊行した。

文献

宮腰健司・織部匡久2001「島崎遺跡」『年報』平成12年度 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
 宮腰健司2002「島崎遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』17 平成12年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
 鵜飼雅弘・早野浩二2003「伝法寺本郷遺跡」『年報』平成13年度 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
 鵜飼雅弘・早野浩二2003「中之郷北遺跡」『年報』平成13年度 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
 鵜飼雅弘2004「伝法寺本郷遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』18 平成13年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
 鵜飼雅弘2004「中之郷北遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』18 平成13年度 愛知県教育委員会・財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター

第1表 調査工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2000年度 担当／ 服部信博 宮腰健司 織部匡久										J I H	G F E D C B A	
2001年度 担当／ 石黒立人 鵜飼雅弘 早野浩二		A B C D				E F G	K J I H G	F E D C B A				P83 P82 P81
2002年度 (立会)	P80	P77 P78 P76		P86 P84								
遺跡	島崎遺跡				伝法寺本郷遺跡				中之郷北遺跡			
工区	P137～128工区				P96～90工区				P65～55・A63工区			
調査区／調査面積	A～K区／2,000㎡				A～G区／1,600㎡				A～K区／2,400㎡			
発掘届出 通知	12埋セ第173号・2000.12.5 12教生第216-40号・2000.12.25				12埋セ第208-14号・2001.3.16 12教生第216-46号・2001.3.28				13埋セ第72号・2001.8.24 13教生第36-10号・2001.9.13			



島崎遺跡調査着手前（I・J区）



島崎遺跡調査完了後（島崎1丁目交差点）



伝法寺本郷遺跡調査着手前（C区）



伝法寺本郷遺跡調査完了後（伝法寺交差点）



宇福寺遺跡調査着手直後（P83工区）



宇福寺遺跡調査完了後（五日市場交差点）



中之郷北遺跡調査着手前（F・G・H区）



中之郷北遺跡調査完了後（中之郷交差点）

写真1 遺跡の現況

第3章 周辺の環境

地形・地質

濃尾平野

伊勢湾を臨む濃尾平野は、西縁を養老山地、東縁を台地や段丘群の発達する更新統堆積物によって画される平野で、わが国第三位の広大な面積を誇る。木曽川を隔てた左岸域（愛知県側）の扇状地帯、自然堤防帯、三角州帯からなる平野面は尾張平野とも呼ばれ、その主要部分は古木曽川水系の諸河川がもたらした夥しい堆積物である第四紀沖積層によって覆われている。沖積層それぞれの岩相分布状態は、扇状地帯が礫質層、自然堤防帯が砂質層、臨海三角州帯が泥質層である。

尾張平野



写真2 馬見塚遺跡（県指定史跡）

遺跡の立地と周辺の遺跡

遺跡の立地

一宮市南東部に所在する島崎遺跡、伝法寺本郷遺跡、西春日井郡西春町西部に所在する中之郷北遺跡、宇福寺遺跡は、いずれも木曽川系自然堤防帯の緩傾斜面に立地する。五条川水系の岩倉市域、一宮市南東部域、西春町東部域、西春日井郡師勝町域には、砂質層を岩層とする相対的に古い自然堤防が発達し、縄文・弥生・古墳時代の遺跡が密集して形成されている（第5・6図）。その代表的な遺跡（古墳）が、西北出遺跡（岩倉市／縄文）、権現山遺跡（同／縄文・古墳）、大地遺跡（同／縄文・弥生）、小森遺跡（同／古墳）、馬見塚遺跡（一宮市／縄文・弥生・古墳）、三ツ井遺跡（同／縄文・弥生・古墳）、猫島遺跡（同／縄文・弥生）、蕪池遺跡（同／弥生）、伝法寺野田遺跡（同／弥生）、元屋敷遺跡（同／弥生・古墳）、西大門遺跡（同／弥生・古墳）、稲荷山古墳（同）、高塚古墳（西春町）、堤下遺跡（師勝町／縄文）、石塚遺跡（同／古墳）、能田旭古墳（同／古墳）である。なお、同じく五条川水系に属する朝日遺跡（春日町・清須市・名古屋市西区／縄文・弥生・古墳）は、中之郷北遺跡から下流方向へ約2.5kmの位置にある。

五条川水系の遺跡

日光川水系の遺跡

一方で、日光川水系の一宮市西部域においても同様に古い自然堤防が発達し、弥生・古墳時代の遺跡の密集域が形成される。その代表的な遺跡（古墳）が、西上免遺跡（弥生・古墳）、今伊勢車塚古墳、八王子遺跡（弥生・古墳）、一宮西高校二夕子遺跡（弥生）、北川田遺跡（弥生）、萩原中学校河田遺跡（弥生）である。



第3図 権現山遺跡の縄文土器

その両地域の間接地帯である青木川、三宅川水系の稲沢市域に発達する自然堤防は相対的に新しく、地表には低塑性粘土が厚く堆積する。この地域で遺跡形成が活発化するの古代以降で、奈良時代には国府と国分二寺が、市域東部の下津地区には鎌倉時代に鎌倉街道の宿駅として折戸宿（弘安年間以降、「折戸」は「下津」と表記）、



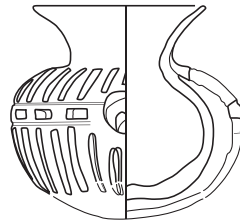
写真3 稲荷山古墳（左、一宮市指定史跡）と高塚古墳（右）

室町時代に尾張国の守護所（下津城）が設置される。なお、尾張国府の所在が推定される稲沢市松下町付近は、宇福寺遺跡から西へ約3km、下津城跡と鎌倉街道は伝法寺本郷遺跡から西へ約1kmの位置にある。伝法寺本郷遺跡付近には九日市場、五日市場の地名が残り、正和3年（1314）の「六波羅御教書案」には「下津五日市」とあることから、下津宿との関係も窺われる。

五条川、青木川の両岸にそれぞれ立地する島崎遺跡、伝法寺本郷遺跡、中之郷北遺跡・宇福寺遺跡は、五条川水系の岩倉市や一宮市南東部域と青木川水系の稲沢市域両地域の特徴を帯びていることは容易に想像される。また同時に、これらの遺跡が尾張地域の、地形発達史、土地利用史の動的な描写に欠くべからざる存在であることも明らかである。

文献

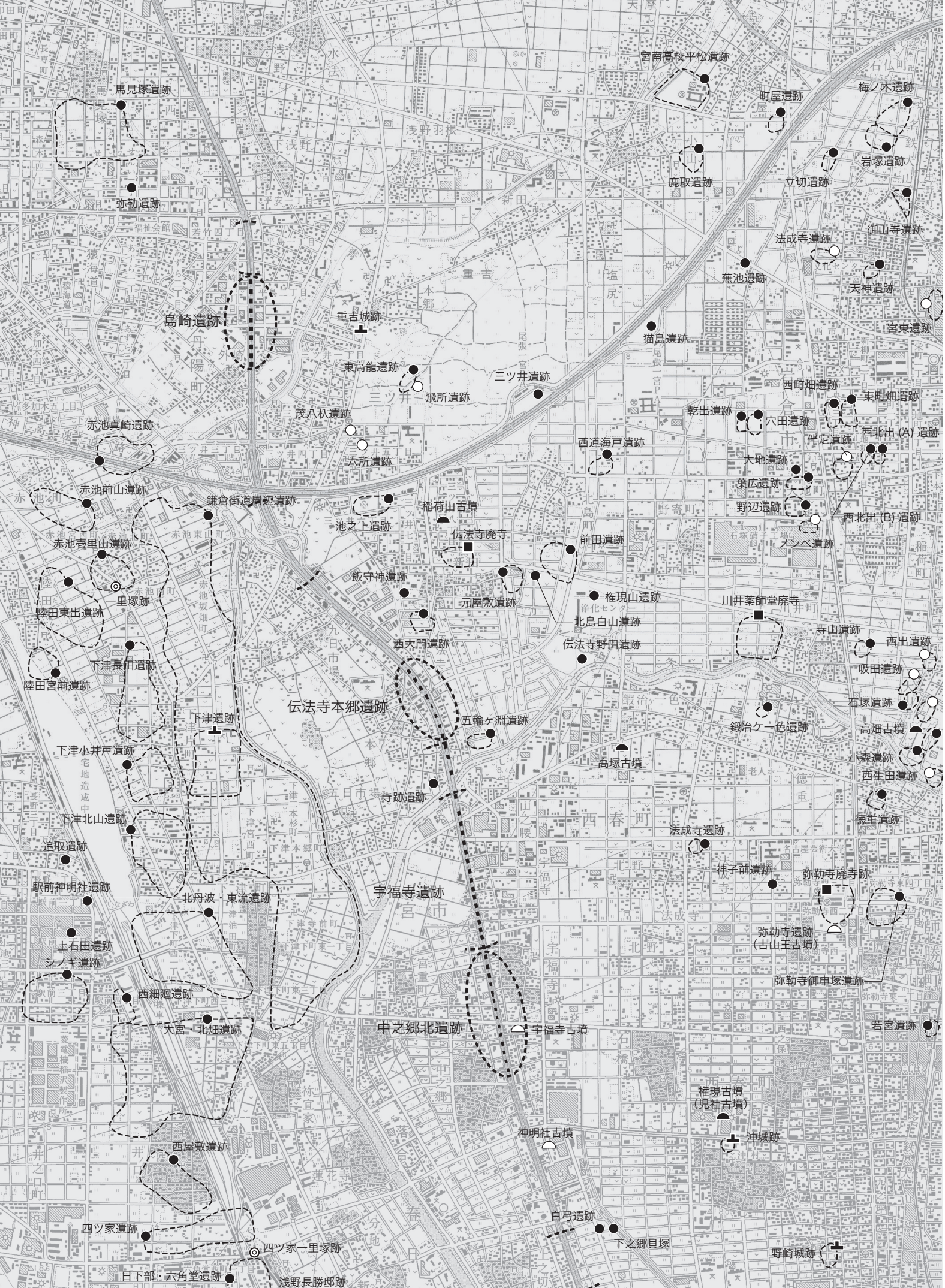
澄田正一・大参義一・岩野見司1967『新編一宮市史』資料編二 一宮市
大参義一・岩野見司1974『新編一宮市史』資料編四 一宮市
井関弘太郎1981「自然」『新修稲沢市史』研究編三 地理 稲沢市
稲葉伸道他1990『新修稲沢市史』本文編上 稲沢市
海津正倫1994『沖積低地の古環境学』古今書院
伊藤秋男編1994『高塚古墳発掘調査報告書』西春町教育委員会
早野浩二編2003『権現山遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第110集 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター



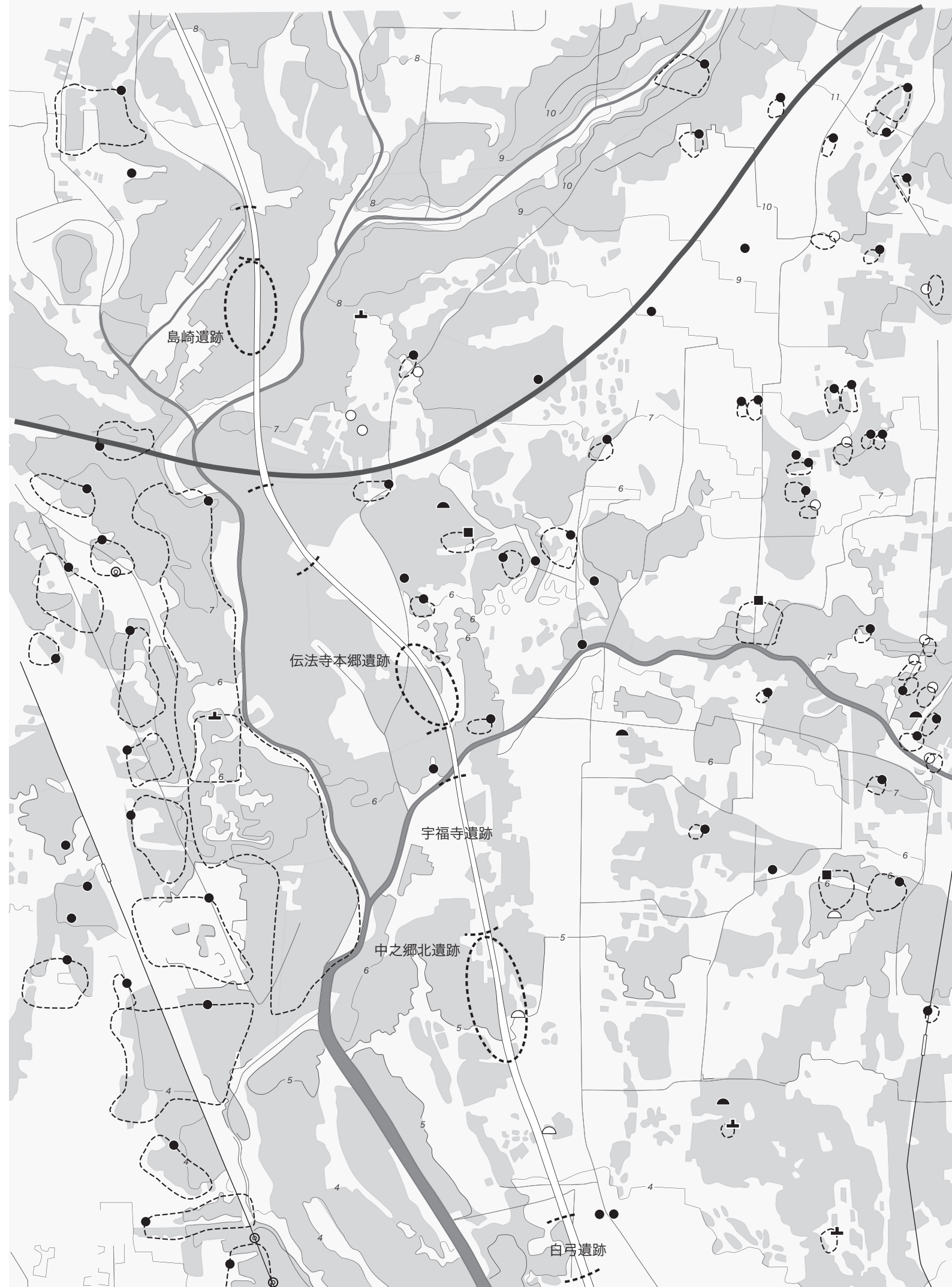
第4図 伝西大門遺跡の須恵器



写真4 現況の島畑（一宮市丹陽町三ツ井地区）



第5図 周辺の遺跡分布 (1:25,000)



第6図 遺跡周辺の地形 (1:25,000)

II 島崎遺跡

第1章 遺跡の環境

自然堤防帯

島崎遺跡は、遺跡の東側及び南側を、南北から北東—南西方向へと流れを変えながら走る青木川の右岸で、標高7 m前後の自然堤防と後背湿地からなる自然堤防帯上に立地している。この青木川に沿った自然堤防帯は幅500 m程で、比較的安定していると考えられる。また北西側は千間堀川・緑葉川・大江川などの旧流路が入り組んでおり、微高地と低地が複雑な地形を形成している（第7図）。

第2章 調査の概要

調査の経緯

島崎遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなく、名岐道路（県道高速清州一宮線）建設に伴う試掘調査の結果、新たに確認された遺跡である。発掘調査は上記の道路建設の事前調査で、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として行った。同線が国道22号線上の高架道路であるため、橋脚部分のみの調査を行うこととなった。そのため調査区は全長約400 mの工区に計10箇所設定している。一つの調査区は200 m²の面積で、合計2000 m²になる。調査区は22号線の中央分離帯とその両側一車線分を囲む形で調査区及び工事ヤードが設定されている（写真5・6）。

10調査区を南からA～J区と呼称し（第8図）、順次調査を行っていった（写真7）。調査は、最上層である砂利敷石盛土層を重機で除去し、除去後の面を第1面とした。その



写真5 調査区の位置（矢印は島崎1丁目交差点）

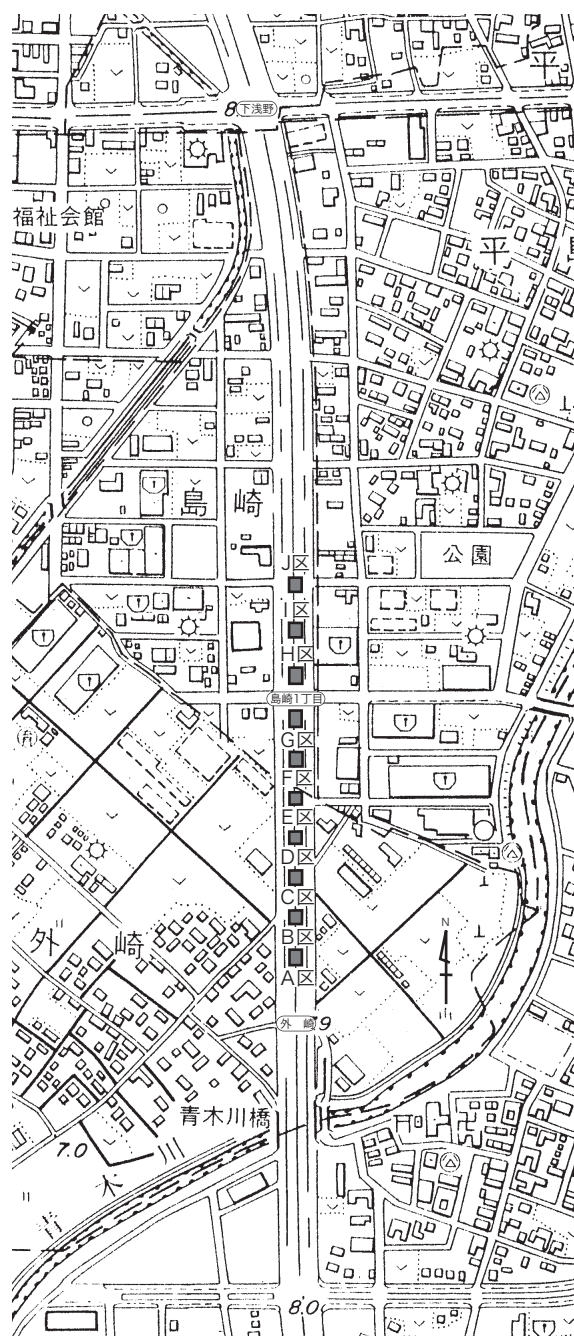


第7図 遺跡周辺地形図 (1:25000) 「国土地理院 土地条件図」昭和49年発行に加筆

ため第1面に関しては一定の連続した遺構面ではなく、かつ削平された地点もみられた。また多くの調査区で第1面では水田跡が検出されたが、土層観察の結果、幾度かにわたって水田が設けられていたことが判明しており、その中の一部のみを抽出した結果となっている。その後河川堆積と思われる「しまりがない黄褐色砂」を掘削し、明黄褐色砂及び明オリーブ灰色砂層上面で第2面の検出を行っている。ただH区からJ区の北側については、ゆるやかに落ち込んでいくため、安定した地山面の検出が困難であった。



写真6 調査区遠景（1：J区から南を、2：A区から北を）



第8図 調査区位置図（1：8000）



写真7 調査風景（3：A区、4：H区）

第3章 遺構・遺物

(1) A区

第1面(第10図)

一辺が3～3.5mの方形または長方形の水田が7区画検出された。畦畔は下端で70～90cm、上端が20～50cm、高さが約18cmで、部分的に畦畔に沿った幅30～50cm・深さ約20cmの溝が走る。時期は江戸時代後期～明治期になると思われる。

水田跡

第2面(第11図)

北東—南西方向に走る4本の溝、SD04・05・06・07(第9図)が検出されている。これらの溝は削平されて、深さが20～40cmと浅くなり、幅は100～150cmを測る。またSD06はSD05・07に切られている。時期はいずれも江戸時代後期になる。

溝群(江戸時代)

SK05・06・08・16・11・26・27に関しては、尾張地方を中心にみられる中世期の「方形土坑」の可能性はある。

方形土坑

遺物(第13図)

SK33出土の蓋(2)は外面に灰釉が施され、内面は無釉。内面には煤の付着がみられる。ST05では、焙烙口縁部(3)、鉄釉が施された馬目皿(4)が出土する。SD07より出土した5は、常滑甕の口縁部を打ち欠いた後、下側面を磨面として用いているもので、形を整えるため、上側面などに打ち欠きや研磨がなされている。2は内面に鉄釉が施された天目茶碗。6・7は山茶碗の底部を打ち欠いて整形された加工円盤。

(2) B区

第1面(第15図)

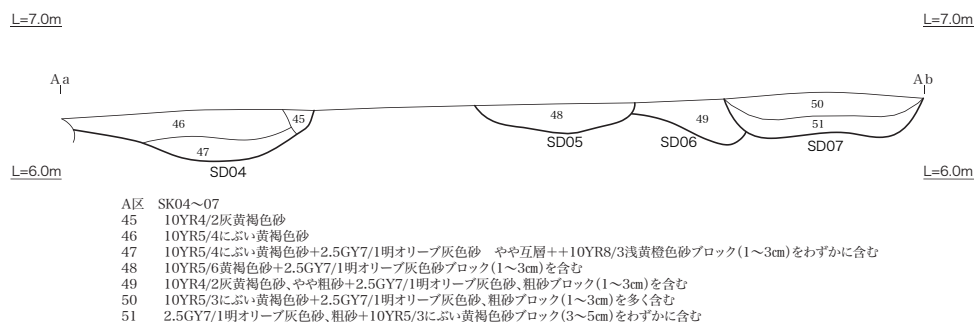
明黄褐色砂を埋土とする方形及び不定形な落ち込みが、5区画検出された。A区でみられたような明確な畦畔遺構は認められなかったが、同様な埋土であることから水田跡と認識した。時期は江戸時代後期～明治期と思われる。

水田跡

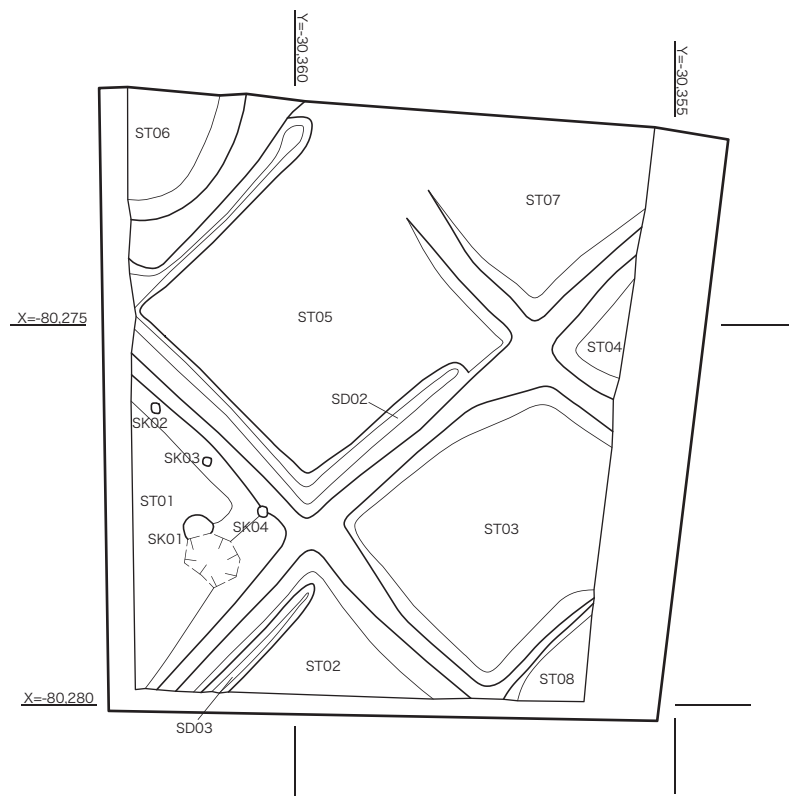
第2面(第16図)

調査区の大部分が、幅700・深さ60～100cmの溝SX01になる。SX01の断面形(第14図)はゆるやかな皿状を呈しており、北東—南西方向に走るが、南西部分で深くなる。埋土は

SX01



第9図 A区SD04・05・06・07土層断面(1:50)

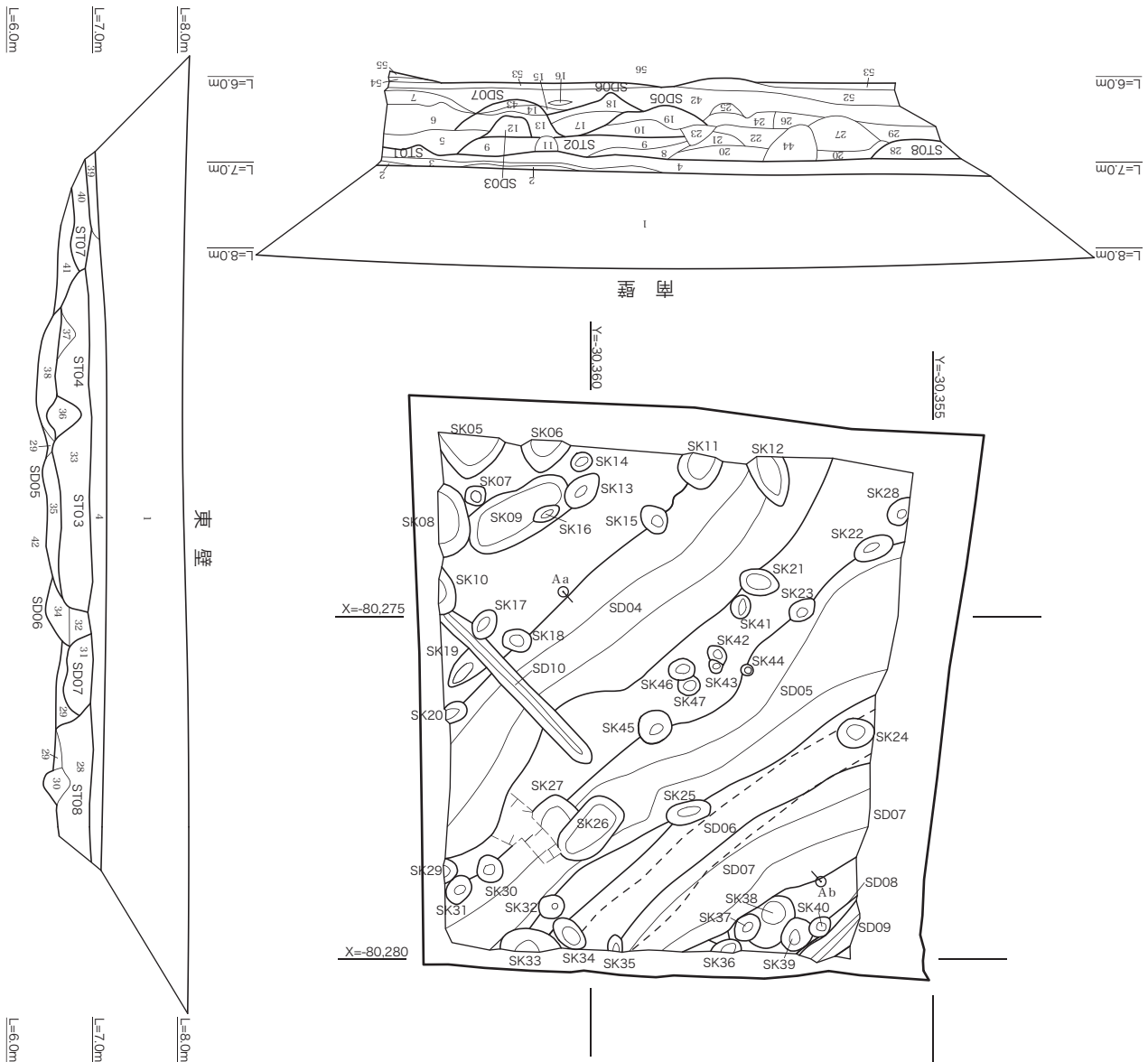


第10図 A区第1面遺構図 (1 : 100)



写真8 A区

1 : 第1面 2 : 第2面検出状況 3・4 : 第2面

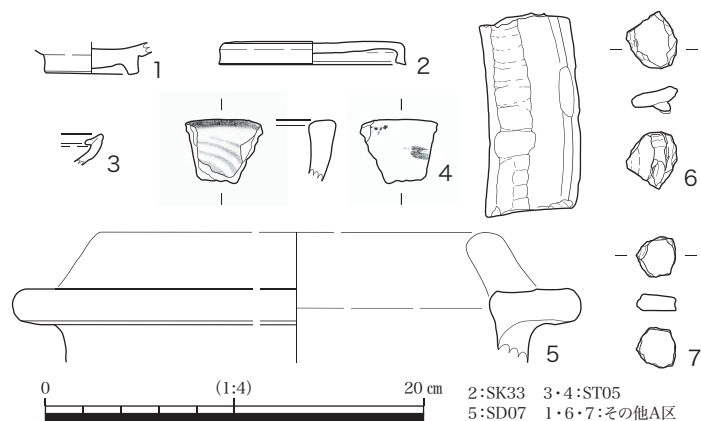


第11図 A区第2面遺構図 (1:100)

- A区 調査区壁
- 1 盛上、砂利敷石
 - 2 10BG7/1明青灰色砂+鉄分 やや互層
 - 3 10BG7/1明青灰色砂+10YR5/3にふい・黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 4 10YR5/3にふい・黄褐色砂 ややしまりがない
 - 5 10YR5/3にふい・黄褐色砂 ややしまりがない+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1cm)を含む
 - 6 10YR5/6黄褐色砂+炭化物
 - 7 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂攪乱(5~10cm)
 - 8 10YR5/4にふい・黄褐色砂 しまりがない
 - 9 10YR5/4にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1cm)を含む
 - 10 10YR5/4にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 11 2.5Y5/3黄褐色砂 しまりがない
 - 12 2.5Y5/3黄褐色砂 しまりがない
 - 13 10YR5/6黄褐色砂+炭化物やや多く含む
 - 14 10YR5/6黄褐色砂+炭化物攪乱(5~10cm)
 - 15 10YR4/3にふい・黄褐色砂
 - 16 10YR4/4褐色砂
 - 17 10YR5/3にふい・黄褐色砂
 - 18 10YR4/2灰黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 19 10YR5/3にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を多く含む
 - 20 2.5Y5/3黄褐色砂 ややしまりがないにふい・黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂攪乱(5~20cm)
 - 21 2.5Y4/2黄褐色砂 しまりがない
 - 22 10YR5/4にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂、やや互層
 - 23 2.5Y5/3黄褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂(1~3cm)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 24 10YR4/4褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂、互層
 - 25 10YR4/4褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂攪乱(5~10cm)
 - 26 10YR4/3にふい・黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 27 10YR4/3にふい・黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
 - 28 10YR5/3にふい・黄褐色砂、ややしまりがない+10YR7/8黄褐色砂、やや粗砂攪乱(5~20cm)
 - 29 10YR7/8黄褐色砂、やや粗砂
 - 30 10YR7/8黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/3にふい・黄褐色砂攪乱(3~5cm)

- 31 10YR5/3にふい・黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂+10BG7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 32 10YR5/3にふい・黄褐色砂+10BG7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 33 2.5Y5/2暗灰黄色砂 しまりがない
- 34 10YR5/4にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 35 10YR5/3にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 36 2.5Y5/4黄褐色砂 ややしまりがない
- 37 10YR5/3にふい・黄褐色砂+10BG7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 38 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 39 10BG7/1明青灰色砂+10YR5/3にふい・黄褐色砂攪乱(3~5cm)
- 40 2.5Y5/4黄褐色砂
- 41 10YR7/8黄褐色砂、やや粗砂
- 42 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂
- 43 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂攪乱(3~5cm)+炭化物
- 44 2.5Y4/2暗灰黄褐色砂 しまりがない
- 45 10YR4/2灰黄褐色砂
- 46 10YR5/4にふい・黄褐色砂
- 47 10YR5/4にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂 やや互層++10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
- 48 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 49 10YR4/2灰黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を含む
- 50 10YR5/3にふい・黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 51 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR5/3にふい・黄褐色砂ブロック(3~5cm)をわずかに含む
- 52 10GY7/1明緑灰色砂、粗砂 砂粒細かい+10YR5/6黄褐色砂、粗砂+10BG7/1明青灰色砂、粗砂をわずかに互層
- 53 10YR5/6黄褐色シルト、やや粘質強い+鉄分
- 54 10GY7/1明緑灰色砂、細砂
- 55 10GY7/1明緑灰色砂、細砂+ 10YR5/8/6黄褐色シルト、やや粘質強い やや互層+鉄分
- 56 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂 砂粒粗い

第12図 A区東壁・南壁土層断面図 (1:80)



第13図 A区出土遺物実測図 (1:4)

黄褐色砂と明オリーブ灰色砂がやや互層状をなす。時期は12世紀後半から13世紀前半か。

遺物 (第18図)

SX01 出土の8・9は、南部系山茶碗の第3・4型式に比定され、11～15は山茶碗の底部を打ち欠いた加工円盤である。16は土師質の甕(?)で、口縁端面が強いヨコナデにより引き伸ばされている。17は伊勢型鍋口縁部、18の山茶碗は南部系山茶碗の第3・4型式、21は山茶碗の底部を打ち欠いた加工円盤。19は中央に孔がある、扁平な円形の焼き物で、上・下面がケズリ成形される。20は具須絵が描かれた磁器口縁部で、全体に強く研磨されている。

(3) C区

地山面である明オリーブ灰色砂・黄橙色砂面が標高7.3m前後と上昇し、それに伴い遺構深度が浅くなっている。

第1面 (第19図)

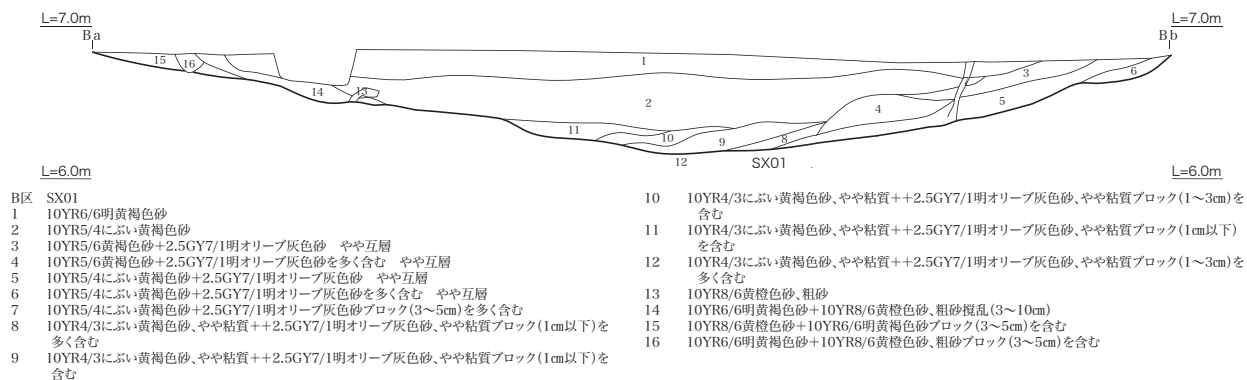
水田跡

B区と同様の方形及び不定形な落ち込みが検出された。畦畔はみられないが、形状から水田跡と考えられ、時期は江戸時代後期～明治期になる。

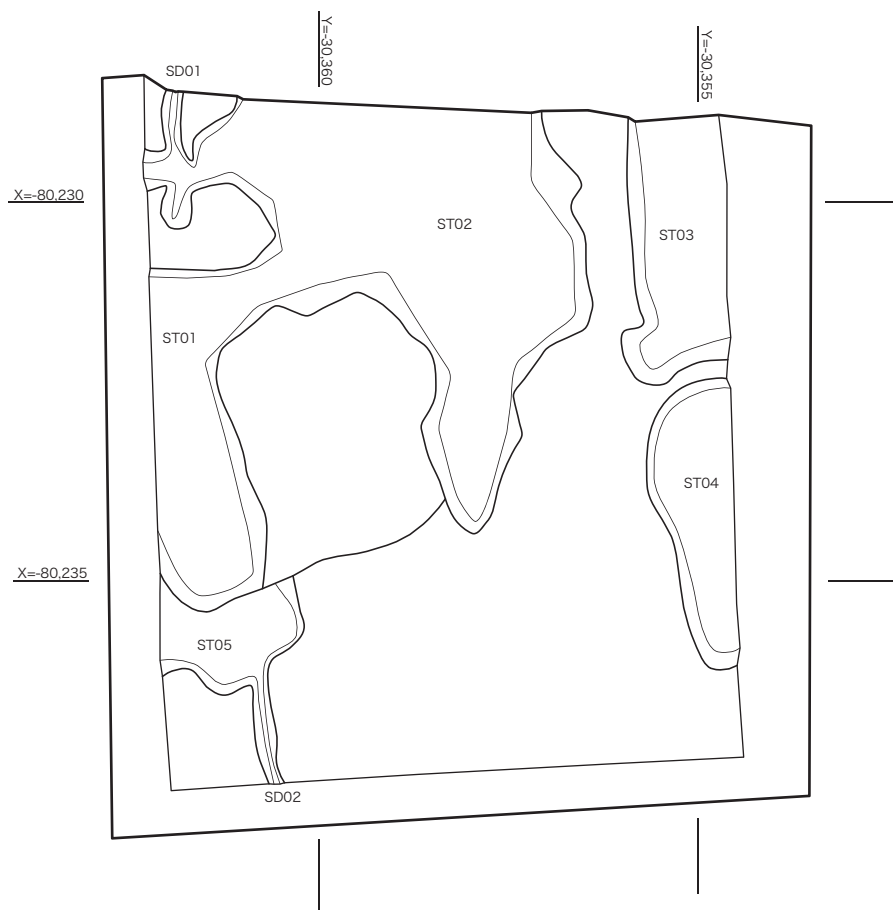
第2面 (第20図)

SK48・49

SK48・49は連続する大型土坑で、48が幅170cm・深さ80cm、49が幅120cm・深



第14図 B区SX01土層断面 (1:50)



第15図 B区第1面遺構図 (1 : 100)

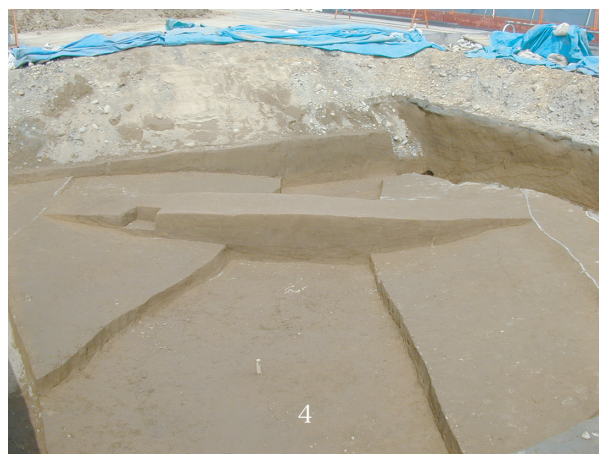
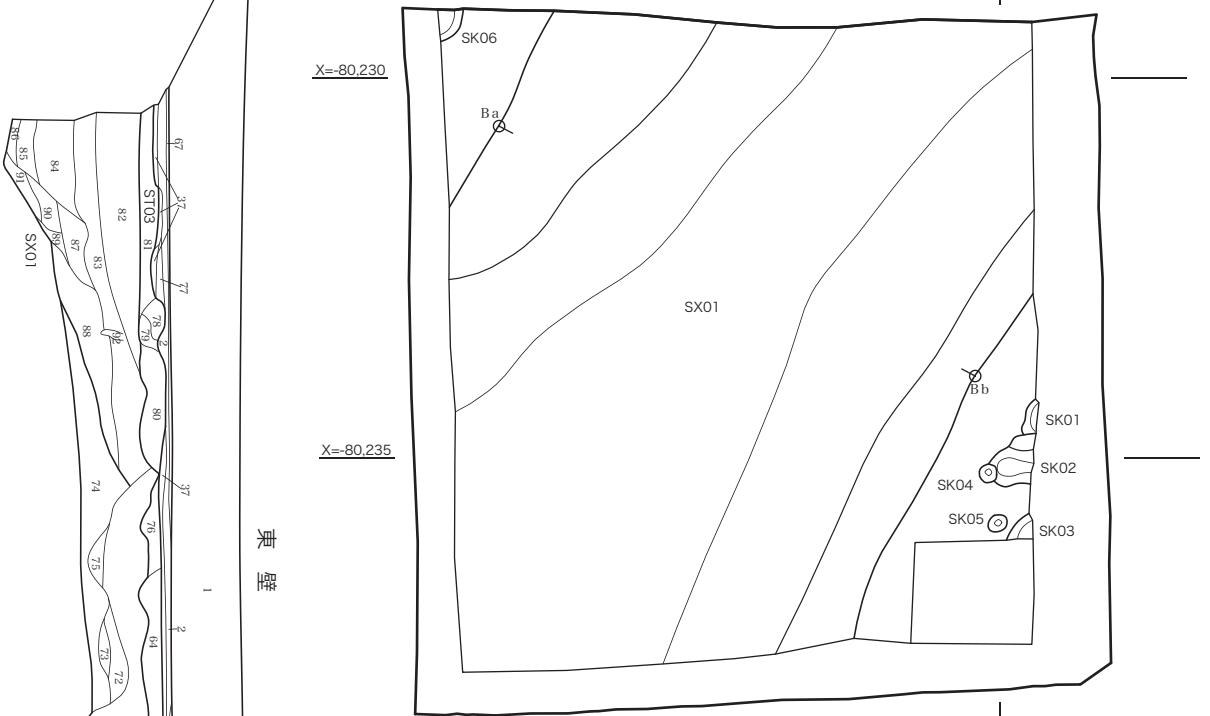
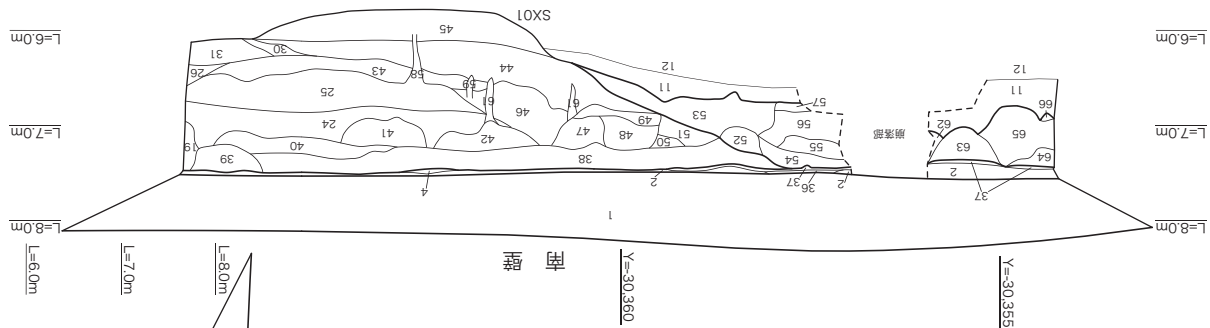


写真9 B区

1 : 第1面検出状況 2 : 第1面 3 : 第2面 4 : SX01土層断面



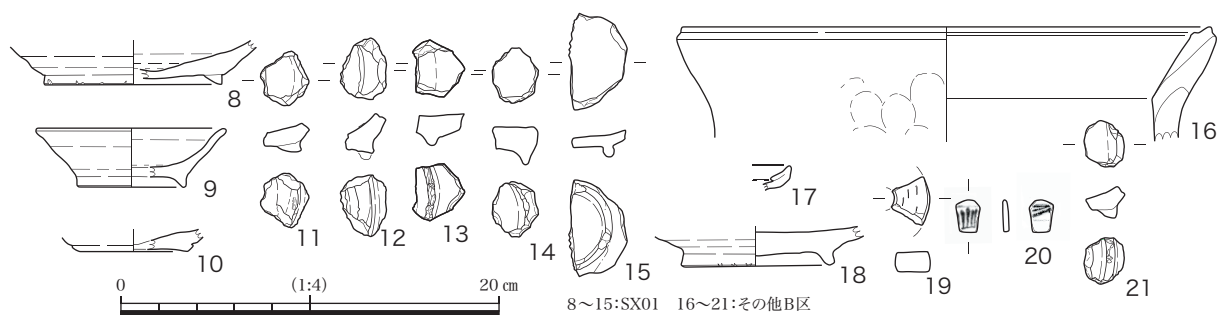
第16図 B区第2面遺構図 (1 : 100)

B区 調査区壁

- 1 盛土、砂利敷石
- 2 5B4/1暗青灰色砂+鉄分沈着する 固くしまる
- 3 5B6/1青灰色砂 固くしまる
- 4 10Y6/1灰色砂 固くしまる
- 5 5YR5/6明赤褐色砂 固くしまる
- 6 10YR6/6明黄褐色砂+鉄分沈着する やや固い
- 7 10YR6/6明黄褐色砂 やや固い
- 8 10YR5/4にぶい黄褐色砂
- 9 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 10 10YR7/8黄褐色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂ブロック(3~5cm)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂(3~5cm)を含む
- 11 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂ブロック(3~5cm)をわずかに含む
- 12 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂
- 13 10YR6/4にぶい黄褐色砂
- 14 10YR6/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~10cm)をわずかに含む
- 15 10YR5/4にぶい黄褐色砂
- 16 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1~3cm)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~2cm)を多く含む
- 17 10YR4/2灰黄褐色砂
- 18 10YR7/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 19 10YR6/1褐灰色砂
- 20 10YR7/6明黄褐色砂+10YR6/1褐灰色砂ブロック(1~3cm)+炭化物を含む

- 21 10YR7/6明黄褐色砂+10YR6/1褐灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 22 10YR7/6明黄褐色砂+10YR6/1褐灰色砂擾乱(3~5cm)
- 23 10YR6/6明黄褐色砂
- 24 10YR5/4にぶい黄褐色砂
- 25 10YR4/3にぶい黄褐色砂+10YR8/6黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 26 10YR4/3にぶい黄褐色砂
- 27 10YR4/3にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 28 10YR6/4にぶい黄褐色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂ブロック(3~10cm)をわずかに含む
- 29 10YR6/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 30 10YR4/3にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂擾乱(1~5cm)
- 31 10YR4/3にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 32 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR6/4にぶい黄褐色砂擾乱(1~3cm)
- 33 10YR4/3にぶい黄褐色砂+10YR6/4にぶい黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 34 10YR4/3にぶい黄褐色砂+10YR6/4にぶい黄褐色砂擾乱(3~5cm)
- 35 10YR4/3にぶい黄褐色砂+10YR6/4にぶい黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 36 5B3/1暗青灰色砂
- 37 5YR5/6明赤褐色砂 固くしまる
- 38 2.5Y4/1黄灰色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)+10YR8/2灰白色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 39 2.5Y4/1黄灰色砂+10YR6/4にぶい黄褐色砂ブロック(1~3cm)を多く含む+炭化物
- 40 10YR6/4にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む+炭化物
- 41 10YR6/4にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
- 42 10YR6/4にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
- 43 10YR4/3にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 44 10YR5/2灰黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を含む、やや砂質強い
- 45 10YR5/2灰黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む、砂質強い
- 46 10YR5/3にぶい黄褐色砂
- 47 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5Y4/1黄灰色砂擾乱(5~10cm)+炭化物
- 48 2.5Y5/1黄灰色砂
- 49 2.5Y5/1黄灰色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1~5cm)を含む
- 50 10YR5/1褐灰色砂
- 51 10YR5/1褐灰色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 52 10YR5/1褐灰色砂+炭化物 しまりがない
- 53 10YR6/6明黄褐色砂、砂質強い+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 54 10YR5/1褐灰色砂+炭化物 しまりがない
- 55 10YR5/3にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 56 10YR5/3にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 57 2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)+10YR5/3にぶい黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 58 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)を含む 下位は10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)を多く含む
- 59 10YR5/3にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 60 10YR6/4にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む 下位は10YR7/8黄褐色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 61 10YR6/4にぶい黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 62 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR8/6黄褐色砂ブロック(1~3cm)を多く含む+炭化物
- 63 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR8/6黄褐色砂ブロック(1cm以下)を多く含む
- 64 10YR5/2灰黄褐色砂
- 65 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR8/6黄褐色砂ブロック(1cm以下)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 66 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂擾乱(1~3cm)
- 67 10YR6/8明黄褐色砂+5B4/1暗青灰色砂 固くしまるブロック(3~5cm)を含む+鉄分沈着する
- 68 10YR5/4にぶい黄褐色砂
- 69 10YR5/4にぶい黄褐色砂+10YR8/2灰白色砂 やや互層
- 70 欠番
- 71 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂擾乱(1~3cm)
- 72 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂 やや互層
- 73 10YR6/6明黄褐色砂
- 74 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~5cm)を含む
- 75 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂 やや互層
- 76 10YR5/2灰黄褐色砂
- 77 5B6/1青灰色砂+10YR6/8明黄褐色砂擾乱(3~5cm)+鉄分沈着する
- 78 10YR7/6明黄褐色砂+5B6/1青灰色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
- 79 10YR7/6明黄褐色砂
- 80 10YR6/6明黄褐色砂
- 81 10YR6/6明黄褐色砂
- 82 10YR5/4にぶい黄褐色砂
- 83 10YR4/3にぶい黄褐色砂
- 84 10YR5/4にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
- 85 10YR5/4にぶい黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 86 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂擾乱(3~5cm)
- 87 10YR7/6明黄褐色砂
- 88 10YR7/6明黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を含む、砂質強い
- 89 10YR7/6明黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む、粗砂
- 90 10YR7/6明黄褐色砂+5BG7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む、砂質強い
- 91 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂(3~10cm)を多く含む

第17図 B区東壁・南壁土層断面図 (1 : 80)



第18図 B区出土遺物実測図 (1:4)

さ 50cm を測る。両土坑は、同時期に掘削された可能性が高く、時期は江戸時代後期と考えられる。

調査区中央には、北東—南西方向に走る SD02 がある。SD02 は深さ 15 ～ 30cm と浅く、上端の形状も不定形であるが幅 250 ～ 500cm を測る。遺物が小片で時期の特定は難しいが、中世期であると思われる。

SD02

SX01 の南側では総柱掘立柱建物の柱欠になると思われる柱欠が 2 × 2 間分 (SB01) 確認された。柱欠の大きさは径 20 ～ 30cm ・ 深さ 7 ～ 10cm で円形・楕円形を呈する。周辺の土坑群も同様な形状であるので、柱欠になる可能性が高い。

SB01

(4) D区

地山面が標高 7.4 m 前後とさらに高くなったために、第 1 面遺構については確認できなかった。

第 2 面 (第22図)

SK14 (第 24 図) は 2 段掘りで、長径 270 ・ 短径 230cm ・ 深さ 90cm を測るやや不定形な円形の土坑と、中央部やや東よりの場所に径 60cm ・ 深さ 60cm のさらに深い土坑があり、北側には浅い不定形な土坑が付く。2 段目の深い土坑を曲物等の構造物の痕跡とみると、井戸と考えられる。時期は 13 世紀か。SK14 の南西側には、長径 300 ・ 短径 230cm ・ 深さ 50cm を測るやや不定形な楕円形の土坑 SK51 があり、周囲には浅い土坑 SK09 がめぐる (第 24 図)。両土坑とも時期は 13 世紀と思われる。また SK58 も深堀りの結果、井戸と推定されたが、湧水のため断面の観察は不完全であった (写真 11)。

SK14

SK51 ・ 58

SK01 ・ 05 ・ 06 ・ 27 ・ 30 ・ 34 ・ 37 は軸線に規則性がみられ、平面形態も長方形を呈することから、中世期の「方形土坑」として認定した。埋土は攪乱・班土が平行堆積する (第 25 図)。大きさは長径が 130 ～ 250cm で、深さは 30 ～ 60cm を測る。

方形土坑

遺物 (第26図)

22 ・ 24 は南部系山茶碗の第 6 ・ 7 型式に比定される山茶碗底部と、体部を打ち欠いた加工円盤で、SK02 出土の 23 も同時期となる。さらに SK09 出土の 26 ～ 29 ・ 32、SK30 出土の 36 ・ 37 も同時期と考えられるが、27 ・ 32 ・ 37 は北部系である。33 は上 ・ 下 ・ 側面に研磨がみられるやや多孔質の石。SK14 より出土した 34 は須恵器碗、35 は北部系山茶碗である。40 ～ 43 は SK51 より出土したもので、43 は北部系山茶碗第 IV 期、40 ・ 41 は北部系山茶碗の底部を打ち欠いた加工円盤であるが、41 は側面の一部に研磨がみられる。また 42 は体部下端を打ち欠いた後破面を研磨している。

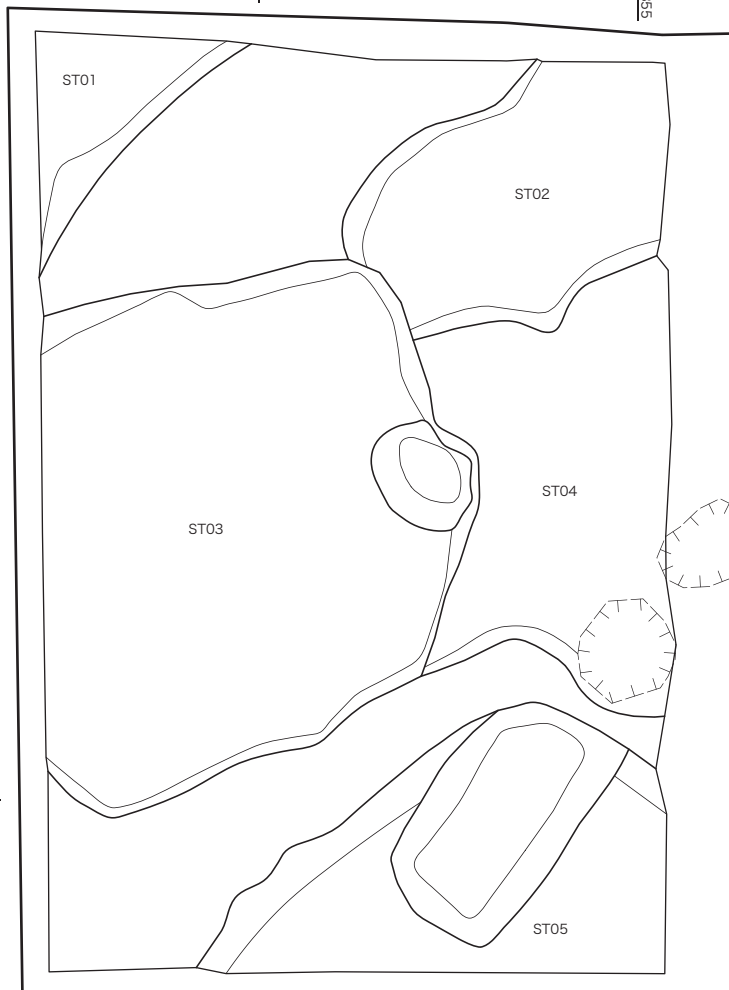
X=-80.185

Y=-30.360

Y=-30.365

X=-80.190

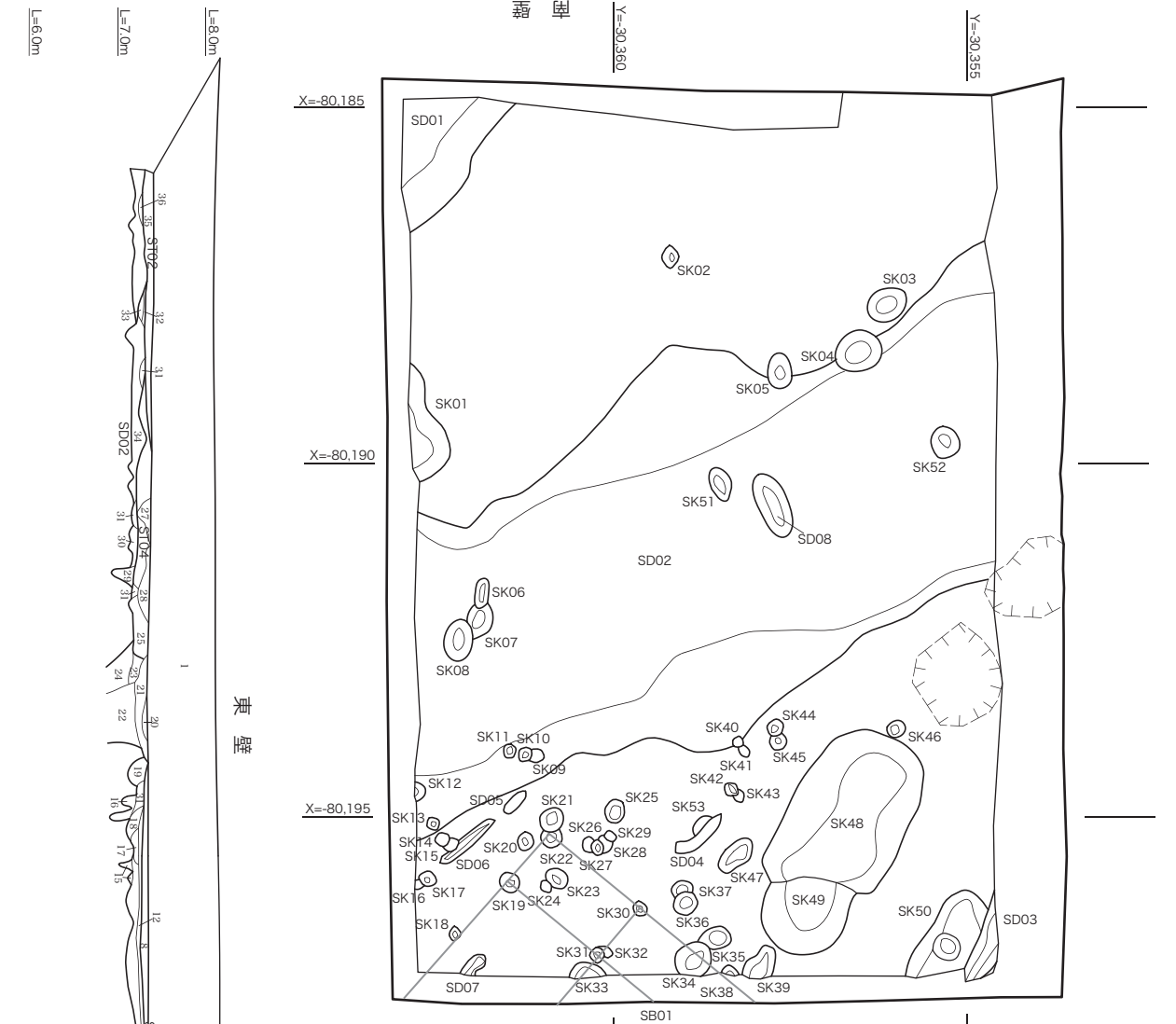
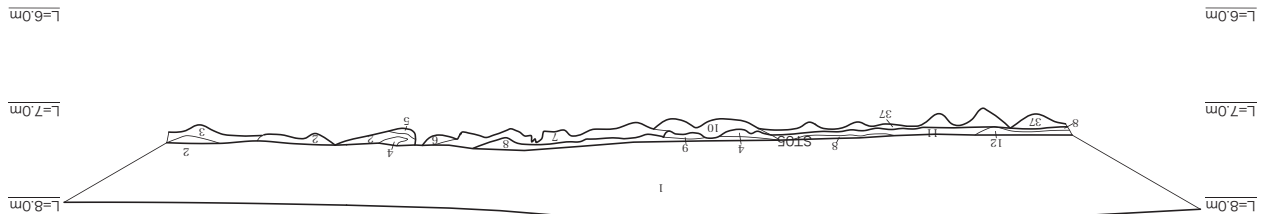
X=-80.195



第19図 C区第1面遺構図

(1 : 100)





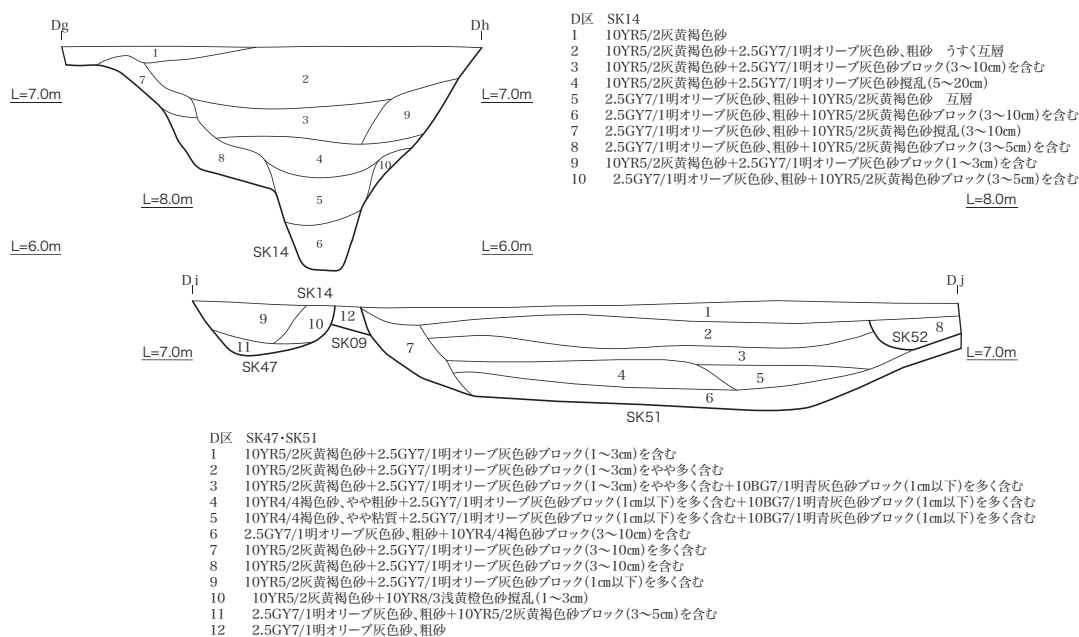
第20図 C区第2面遺構図

(1 : 100)

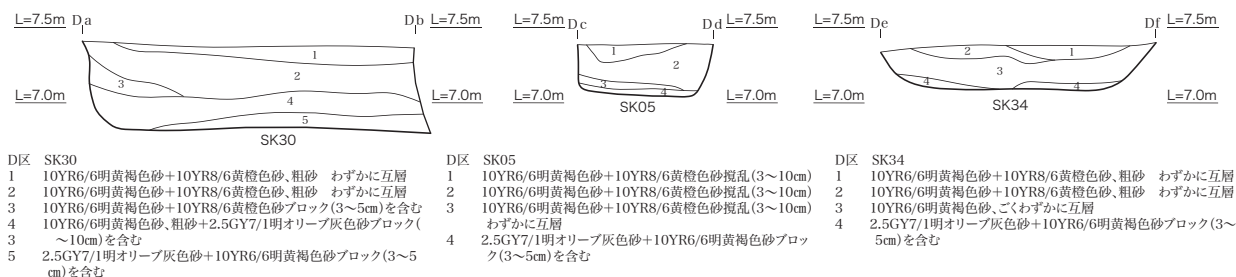
C区 調査区壁

- 1 盛土、砂利敷石
- 2 10YR4/4褐色砂
- 3 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR4/4褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 4 10BG6/1青灰色砂
- 5 10YR4/4褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂 やや互層
- 6 10YR5/4にふい、黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 7 10YR4/4褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 8 5BG5/1青灰色砂
- 9 5BG5/1青灰色砂+5BG3/1暗青灰色砂+10YR8/6黄褐色砂攪乱(1~5cm)
- 10 10YR6/6明黄褐色砂+10YR2/1黒褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 11 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/4褐色砂 やや互層
- 12 10YR3/4暗褐色砂+鉄分沈着
- 13 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR4/4褐色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
- 14 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR4/4褐色砂ブロック(1cm以下)を含む
- 15 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR3/1黒褐色砂+10YR8/6黄褐色砂攪乱(1~3cm)
- 16 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR4/4褐色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
- 17 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/4にふい、黄褐色砂+10YR3/1黒褐色砂 やや互層
- 18 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/4にふい、黄褐色砂+10YR3/1黒褐色砂+10YR5/1褐灰色砂攪乱(1~3cm)
- 19 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/4褐色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
- 20 10YR4/4褐色砂+10YR8/8黄褐色砂+10YR5/1褐灰色砂攪乱(1~3cm)
- 21 10BG5/1青灰色砂
- 22 10YR5/4にふい、黄褐色砂+10BG5/1青灰色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(5~10cm) やや互層
- 23 10YR7/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂 やや互層
- 24 10YR4/1褐灰色砂+10YR7/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂 やや互層
- 25 10YR7/6明黄褐色砂
- 26 10YR4/1褐灰色砂+10BG5/1青灰色砂+10YR7/6明黄褐色砂攪乱(3~5cm)
- 27 10YR5/6黄褐色砂+10YR3/1黒褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 28 10YR5/6黄褐色砂
- 29 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/3にふい、黄褐色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
- 30 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/6黄褐色砂ブロック(3~5cm)+10YR3/1黒褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 31 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 32 10YR4/3にふい、黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂(1cm以下)を多く含む
- 33 10YR4/3にふい、黄褐色砂+10YR7/8黄褐色砂(1cm以下)+2.5GY6/1オリブ灰色砂(1~3cm)を含む
- 34 2.5GY6/1オリブ灰色砂、粗砂+10YR5/6黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 35 10YR4/3にふい、黄褐色砂
- 36 10YR4/3にふい、黄褐色砂
- 37 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR4/4褐色砂ブロック(1~3cm)を含む

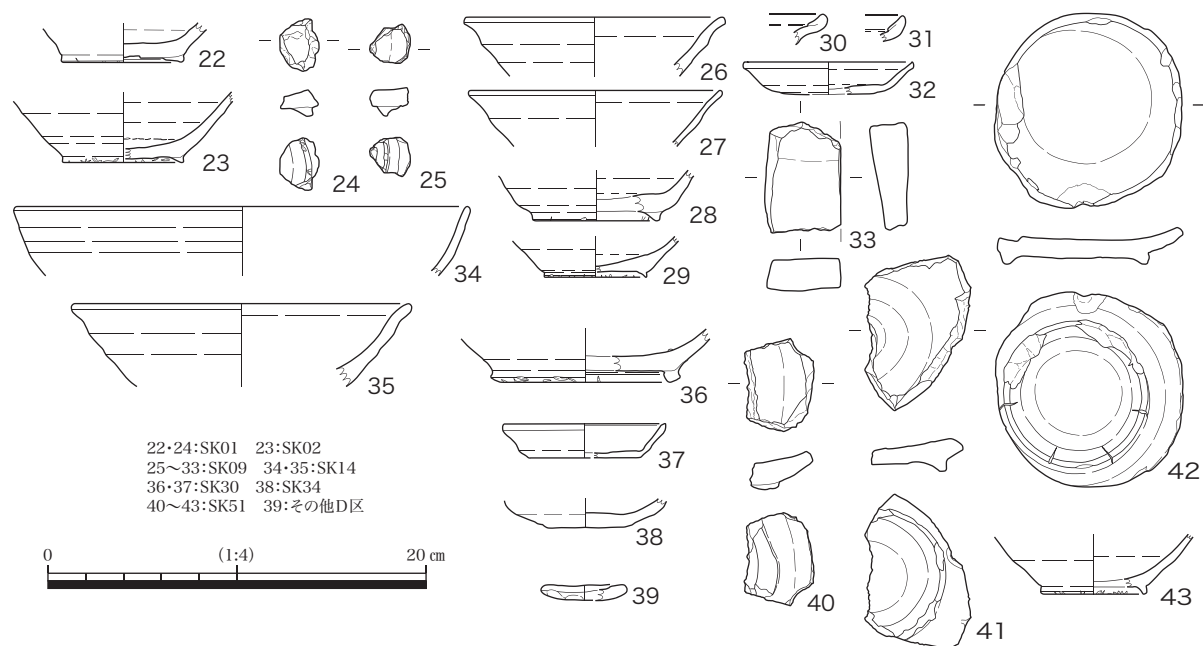
第21図 C区東壁・南壁土層断面図 (1 : 80)



第24図 D区SK14、SK09・47・51・52土層断面 (1:50)



第25図 D区SK30、SK05、SK34土層断面 (1:50)



第26図 D区出土遺物実測図 (1:4)



写真11 D区

1：第2面 2：SK05土層断面 3：SK14土層断面 4：SK58深堀

(5) E区

第1面(第28図)

東西に走る幅 200 ～ 250cm ・ 深さ 5 ～ 20cm の溝 SD01 や、それに切られる直角に屈曲する溝 SD02、大型の土坑 SK02、方形の土坑 SK01 などが検出された。SD01 ・ 02 が江戸時代期～明治期であるため、周辺の遺構もこの時期に近接したものと考えられる。

第2面(第29図)

SK04 SK04 (第 27 図) は短径 490cm ・ 深さ 120cm を測る楕円形を呈する土坑で、D区 SK14 と同様に深い 2 段の落ち込みが、曲物等の構造物の痕跡とすると、井戸と考えられる。

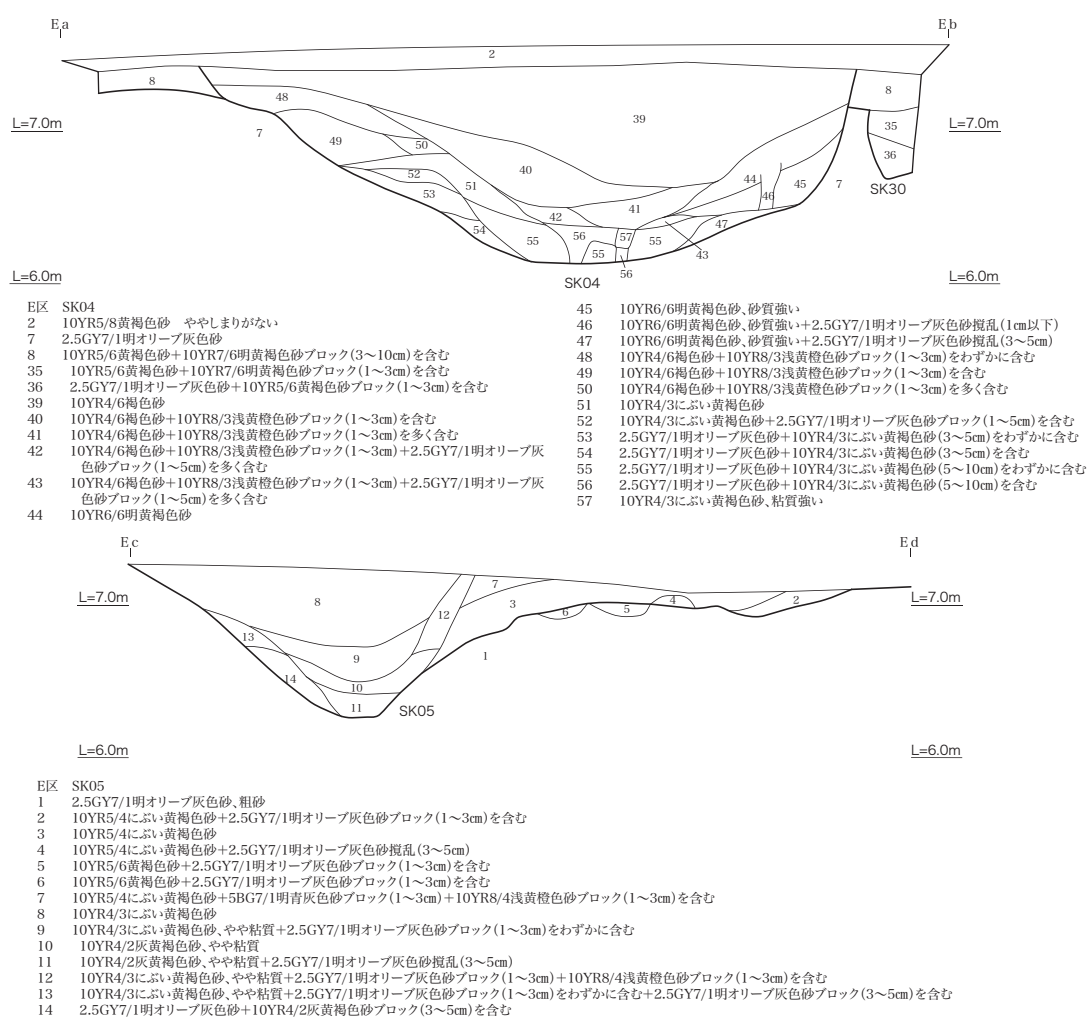
SK05 同じく長径 520cm ・ 短径 440cm ・ 深さ 95cm を測る楕円形の大型土坑 SK05 (第 27 図) も、明瞭な 2 段目の土坑はみられないが、井戸になると思われる。

溝群 北東—南西方向に並行して走る SD03 と 05、これらの溝に直交する SD08 と SD06 ・ 07 がある。SD08 は SK05 部分で収束し、SD06 と 07 間は同一の溝の途切れ部と考えられる。時期は 13 世紀か。

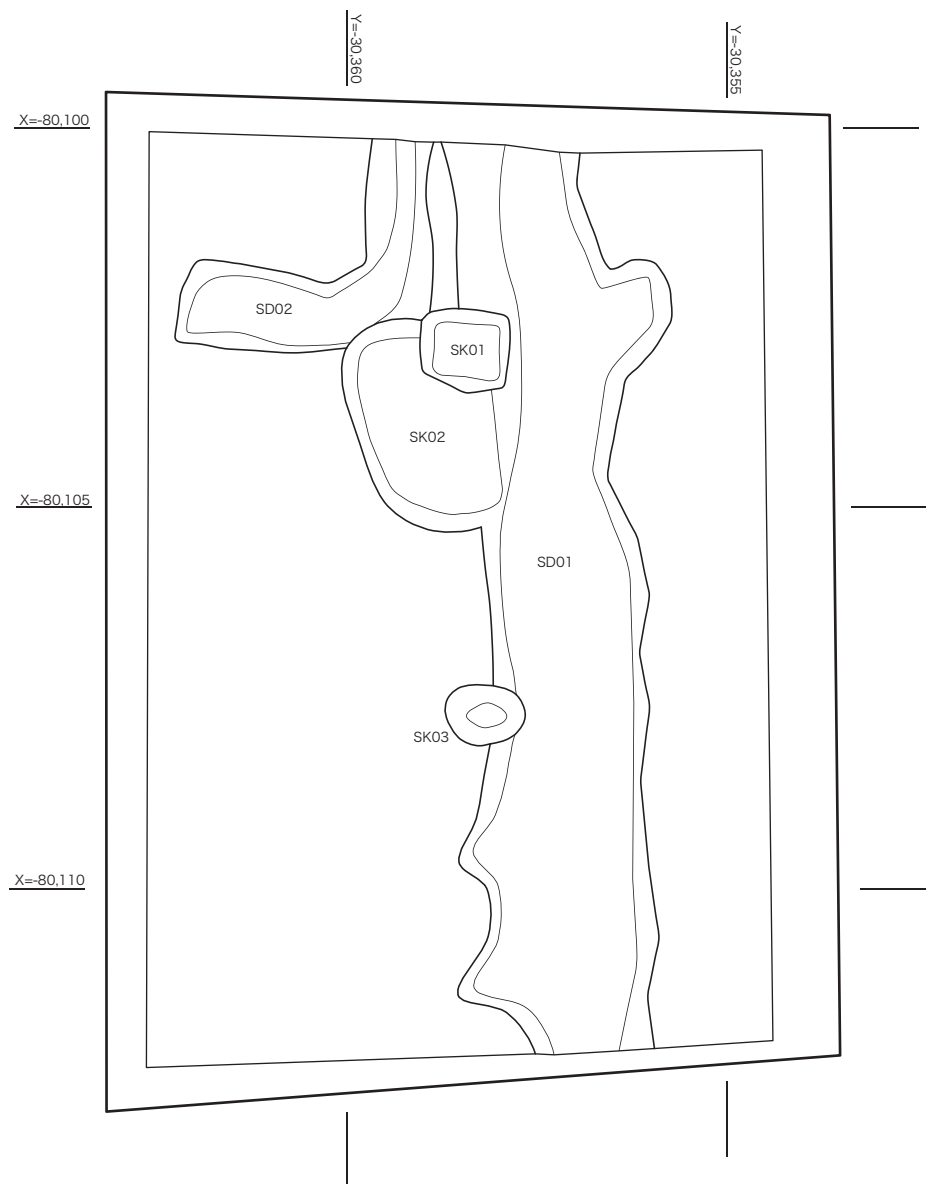
SB01 また南部に展開する小型土坑群は、C区 SB01 と同様な掘立柱建物の柱欠になる可能性がある (SB01)。

遺物（第31図）

SK02 では、陶丸（44）と掘鉢の体部を打ち欠いた後研磨した加工円盤が出土している。SK04 より出土した 46～52 のうち、47 は蓮弁文が施された青磁碗、48・52 は伊勢型鍋、50 は北部系山茶碗 46・49・51 は南部系山茶碗である。時期は南部系山茶碗の第 4・5 型式にあたる。53～74 は SK05 より出土した。53～62・64～67 は南部系山茶碗の第 6・7 型式にあたる山茶碗・小皿で、55・64 は北部系と考えられる。68～71 は常滑製品で、68 は子持器台の可能性があり、69～71 は鉢・片口鉢になる。72～74 は南部系山茶碗の体部下端部分が、地面に平行に円弧状に打ち欠かれている。82 は上・下・側面に研磨がみられる石製品。



第27図 E区SK04、SK05土層断面（1：50）



第28図 E区第1面遺構図 (1 : 100)

(6) F区

第1面 (第33図)

水田跡

調査区中央部より南に南北に延びる幅 140cm・深さ 7cm の溝 SD01 と、西側に展開する水田跡 ST01・02 が検出された。時期は江戸時代後期～明治期か。

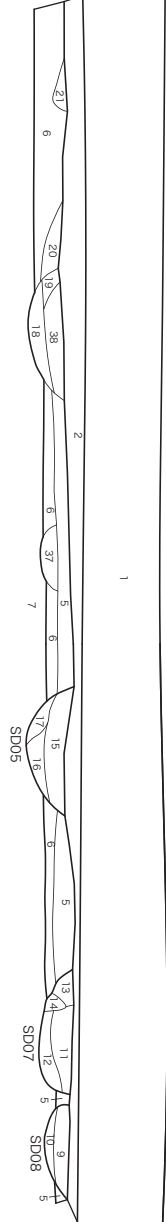
第2面 (第34図)

調査区西側にみられる不定形な溝 SD02～11 に関しては、耕作痕と考えられるもので、第2面で検出しているが、第1面に属する可能性が高い。

方形土坑

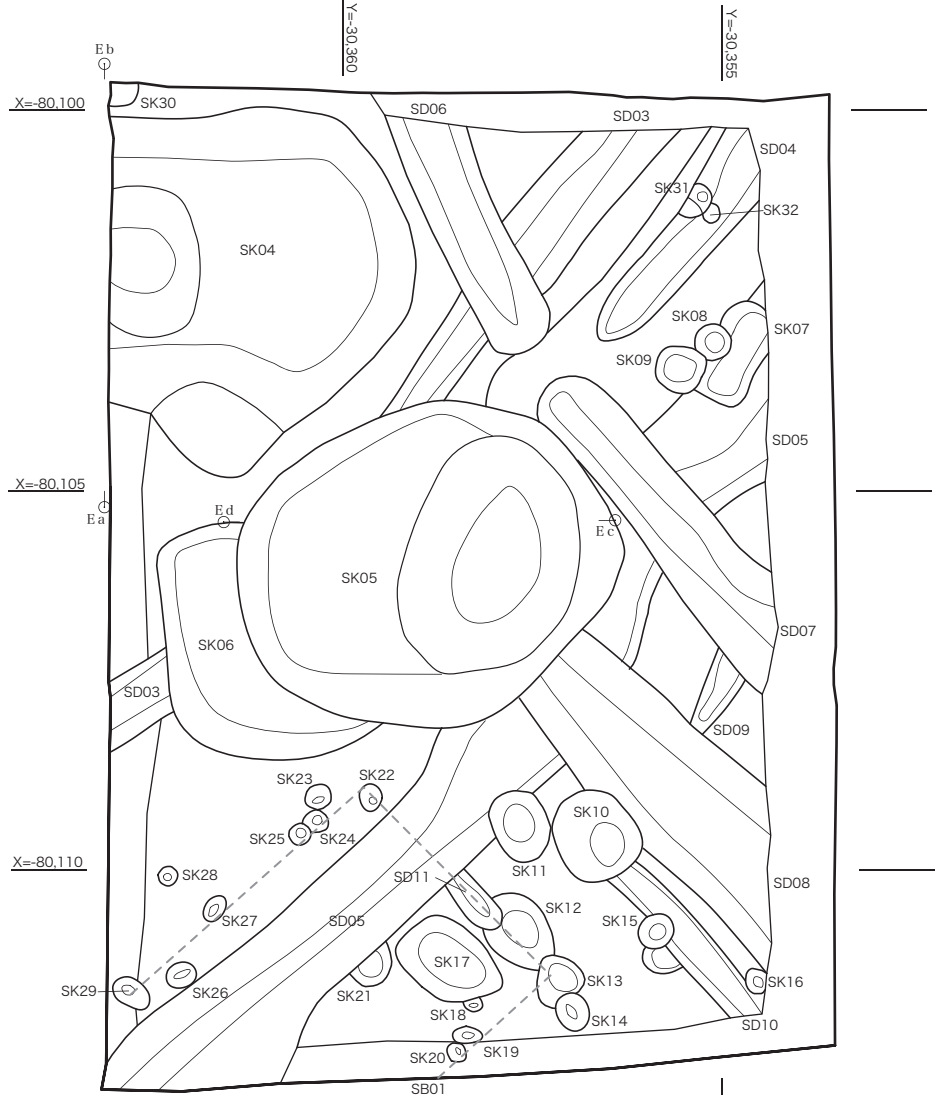
北東—南西方向の同一軸線をもつ SK41・45・51・52 は、方形土坑群と考えられる。このうち SK52 に切られている SK51 (第32図) は、平面形がほぼ正方形を呈し、最上

L=6.0m
L=7.0m
L=8.0m



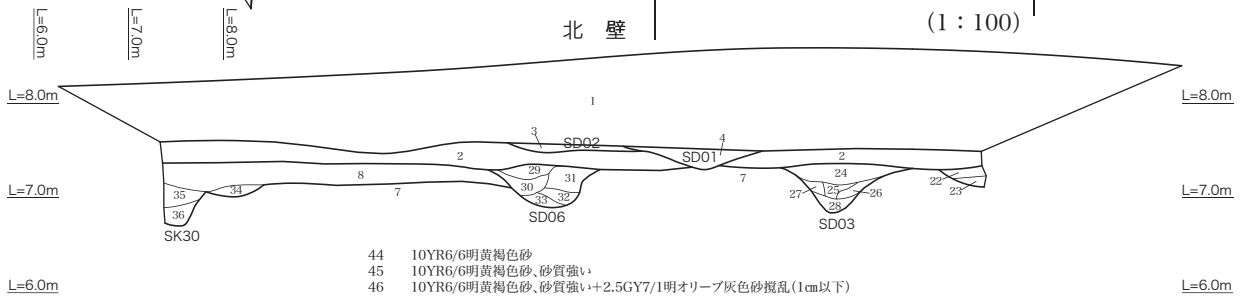
- E区 調査区壁
1 盛土、砂利敷石
2 10YR5/8黄褐色砂 ややしまりが無い
3 10YR5/2灰黄褐色砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
4 10YR6/6明黄褐色砂+10YR5/2灰黄褐色砂攪乱(5~10cm) しまりが無い
5 10YR5/6黄褐色砂
6 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(5~10cm)
7 2.5GY7/1明オリブ灰色砂
8 10YR5/6黄褐色砂+10YR7/6明黄褐色砂ブロック(3~10cm)を含む
9 10YR4/3にぶい黄褐色砂
10 10YR4/3にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(3~5cm)
11 10YR4/3にぶい黄褐色砂
12 10YR4/3にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(3~5cm)
13 10YR4/3にぶい黄褐色砂
14 10YR4/3にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
15 10YR5/6黄褐色砂
16 10YR5/6黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(3~5cm)
17 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
18 10YR4/4褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
19 10YR4/4褐色砂+5BG6/1青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
20 10YR4/4褐色砂+10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(3~5cm)
21 10YR5/6黄褐色砂
22 10YR5/6黄褐色砂
23 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/6黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む

- 24 10YR5/4にぶい黄褐色砂
25 10YR4/3にぶい黄褐色砂
26 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
27 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
28 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
29 10YR4/3にぶい黄褐色砂
30 10YR7/6明黄褐色砂+10YR4/3にぶい黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
31 10YR4/3にぶい黄褐色砂+10YR7/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(5~10cm)
32 10YR7/6明黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
33 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR7/6明黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
34 10YR5/6黄褐色砂
35 10YR5/6黄褐色砂+10YR7/6明黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
36 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR5/6黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
37 10YR4/3にぶい黄褐色砂
38 10YR4/4褐色砂
39 10YR4/6褐色砂
40 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
41 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
42 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~5cm)を多く含む
43 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~5cm)を多く含む



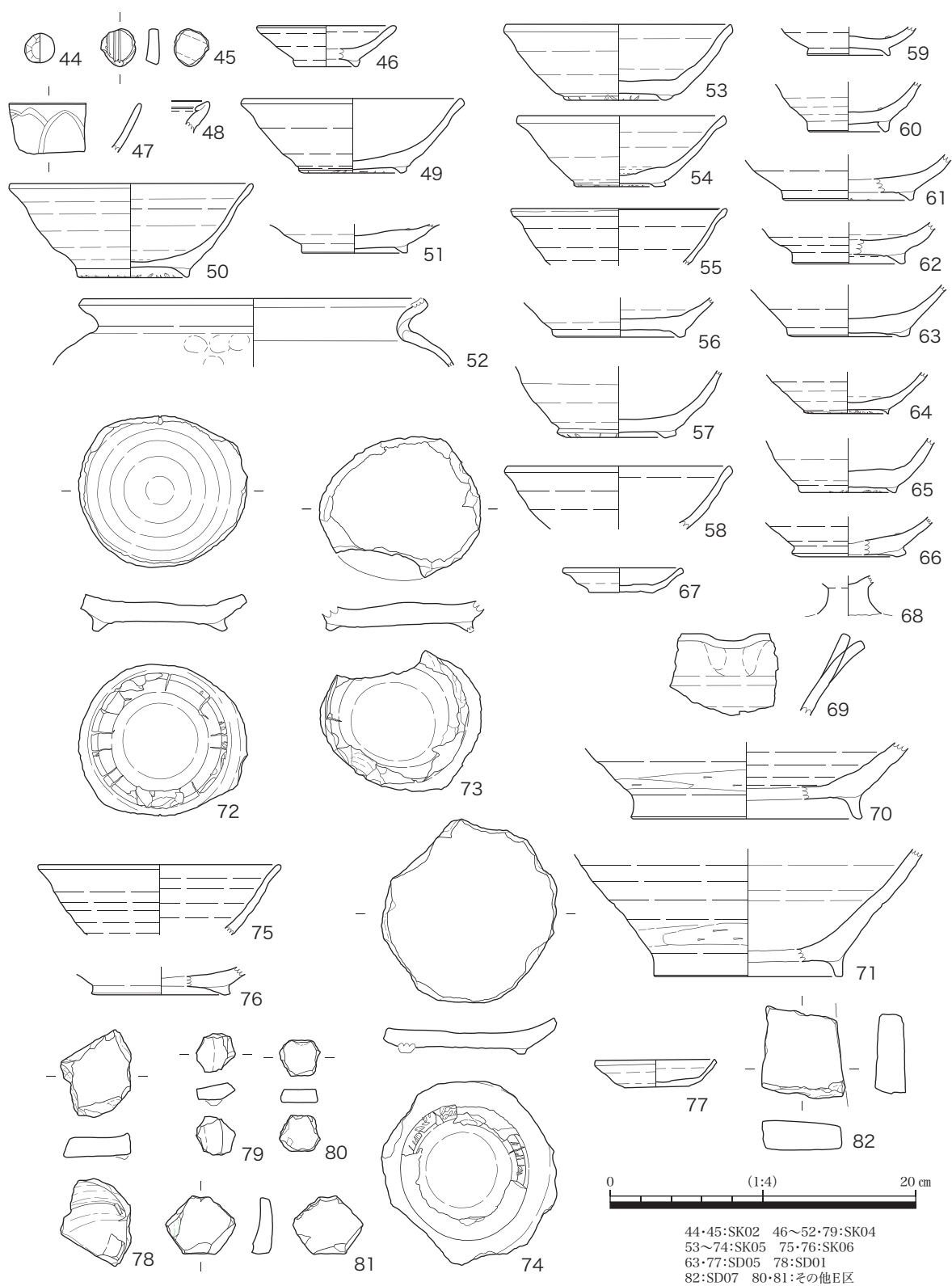
第29図 E区第2面遺構図

北壁 (1:100)



- 44 10YR6/6明黄褐色砂
45 10YR6/6明黄褐色砂、砂質強い
46 10YR6/6明黄褐色砂、砂質強い+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(1cm以下)
47 10YR6/6明黄褐色砂、砂質強い+2.5GY7/1明オリブ灰色砂攪乱(3~5cm)
48 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
49 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
50 10YR4/6褐色砂+10YR8/3浅黄褐色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
51 10YR4/3にぶい黄褐色砂
52 10YR4/3にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~5cm)を含む
53 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/3にぶい黄褐色砂(3~5cm)をわずかに含む
54 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/3にぶい黄褐色砂(3~5cm)を含む
55 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/3にぶい黄褐色砂(5~10cm)をわずかに含む
56 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR4/3にぶい黄褐色砂(5~10cm)を含む
57 10YR4/3にぶい黄褐色砂、粘質強い

第30図 E区東壁・北壁土層断面図 (1:80)

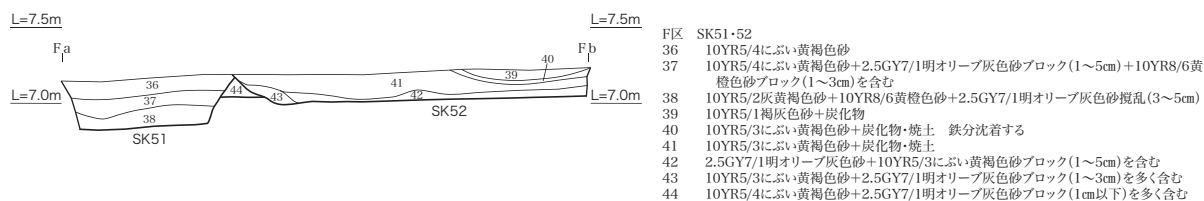


第31図 E区出土遺物実測図 (1 : 4)



写真12 E区

1：第1面 2：SD05遺物出土状態 3：SK04遺物出土状態・4：SK05遺物出土状態
5：SK05 6：SK05土層断面 7：SK04土層断面 8：第2面



第32図 F区SK51・52土層断面 (1:50)

層より銭貨が8枚(第36図M1~M9)、同一の高さで出土している。またSK51に隣接するSK49でも銭貨が1枚(第36図M10)、同じく最上層より出土している。これらの土坑の時期は13世紀になると考えられる。北壁際にある大型土坑SK01は径200cm・深さ70cmを測る。時期は13世紀。

調査区の北側では柵と考えられる土坑列が2列(SA01・02)認められ、さらにその外側の土坑(SK18・20)も柵になる可能性がある(SA03)。時期は不明であるが、埋土より中世期になると思われる。

遺物(第37図)

SK01では、南部系の山茶碗(84・85)、北部系山茶碗小皿(86)、伊勢型鍋が出土する。SK05より出土した南部系山茶碗小皿(87)の底部外面には墨書がみられる。SK52には、第6型式になる山茶碗・小皿(89~92・95)、伊勢型鍋(93)、常滑製品鉢(94)があり、92・95の底部外面には墨書が書かれている。またSK54出土の南部系山茶碗(96)の底部外面にも墨書がみられる。SD01では、南部系山茶碗(97・98)と山茶碗底部を用いた加工円盤(99)が出土する。105は鉄釉を施した甕、106はナデ調整された陶器である。加工円盤(100~104)のうち、100は鉄釉がかけられた搦鉢、103は焼き締め陶、その他は山茶碗を加工している。

(7) G区

第1面(第39図)

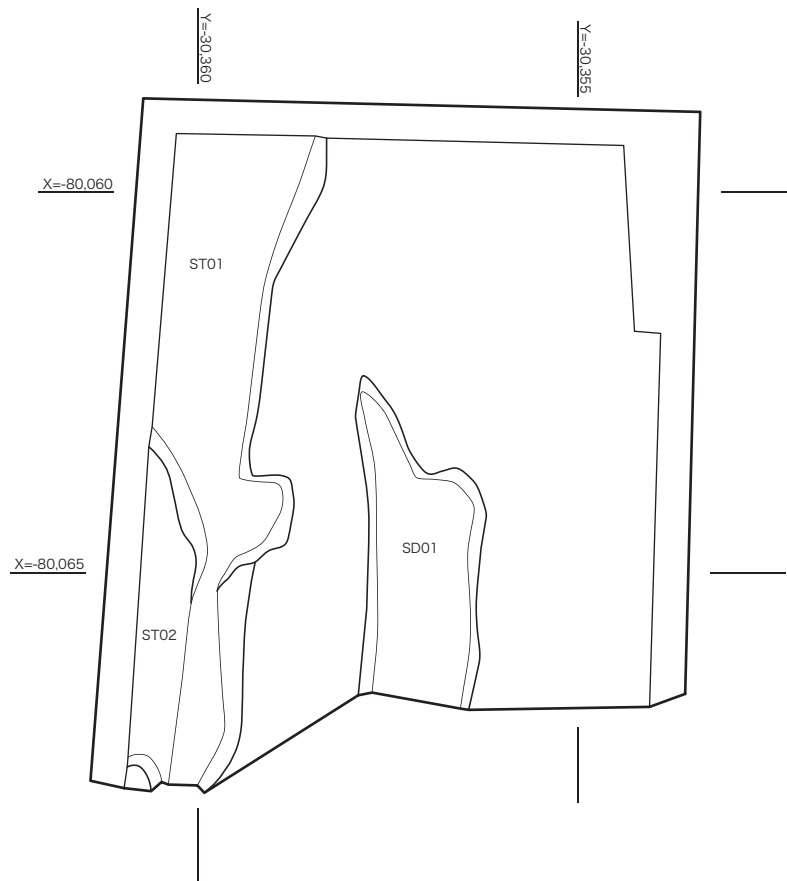
調査区西半部が、深さ10~15cmを測る水田跡ST01となる。時期は江戸時代後期~明治期か。

第2面(第40図)

北東から南西にかけて走るSD01は、幅約100cm・深さ約40cmを測る。時期は13世紀後半~14世紀になる。また同方向に走るSA01(SK21・20・25・31)も中世期になる可能性が高い。

遺物(第38図)

SD01では、第V期北部系山茶碗(113)、南部系山茶碗の底部を用いた加工円盤(114)が出土している。

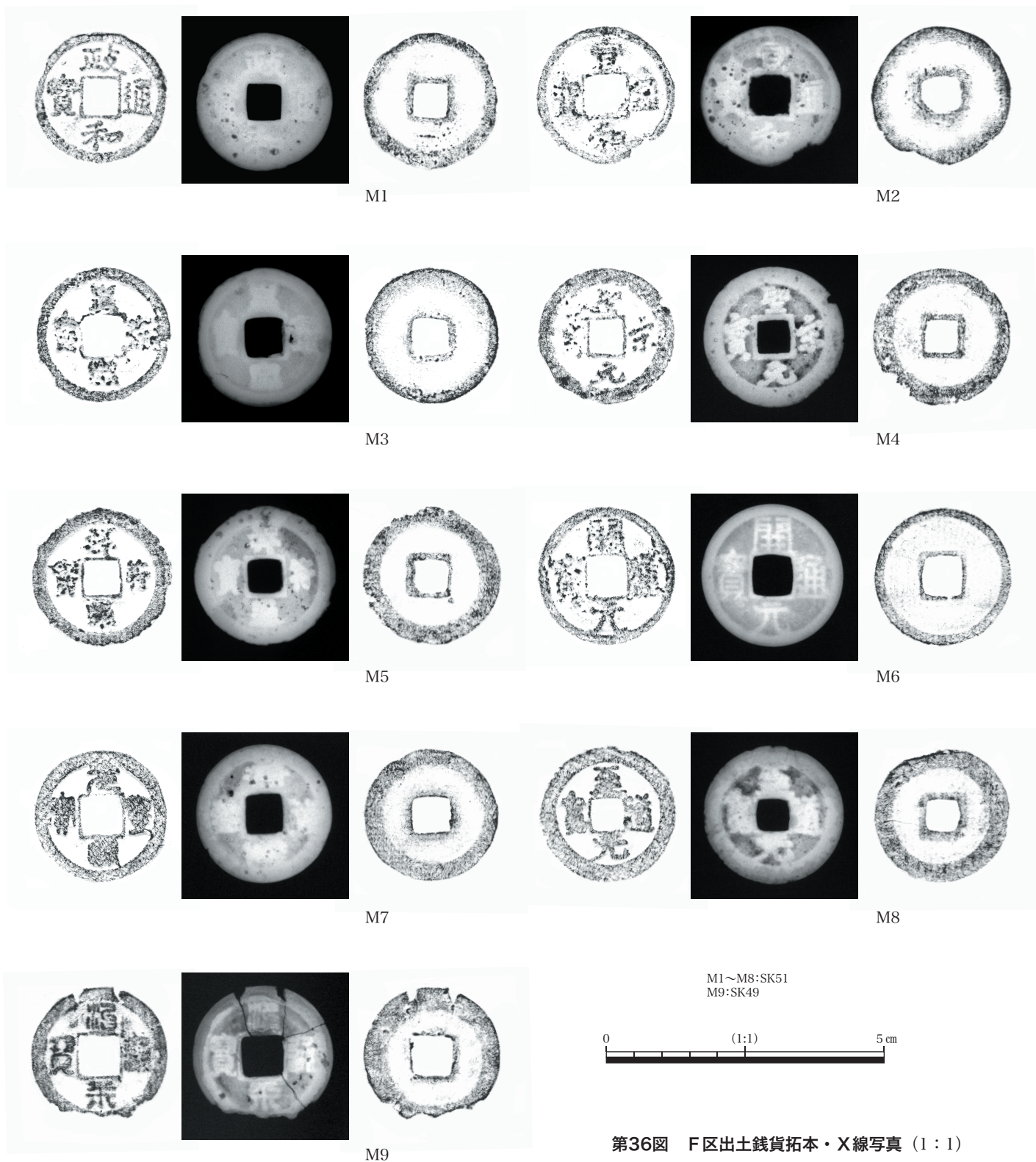


第33図 F区第1面遺構図 (1 : 100)



写真13 F区

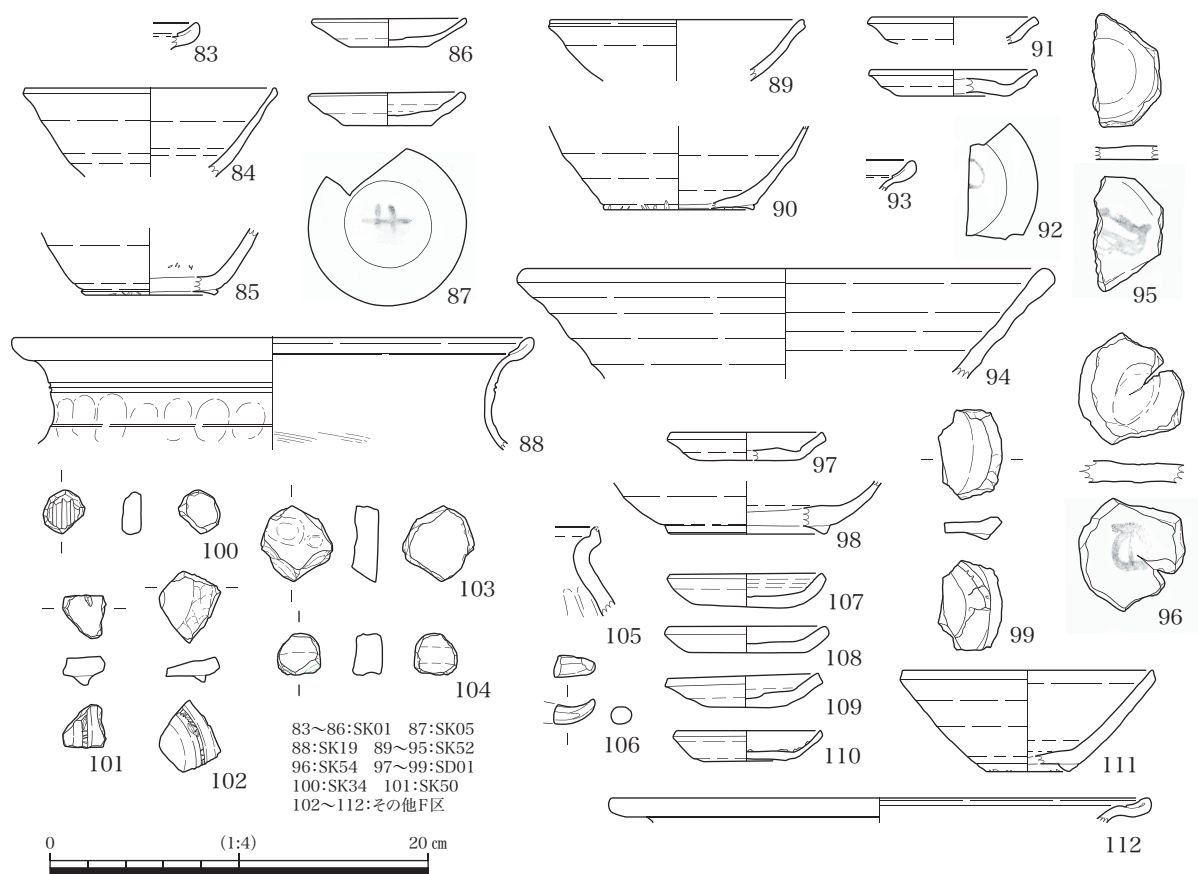
1 : 第1面 2 : 第2面 3 : SK51・52土層断面 4 : SK51銭貨出土状態



第36図 F区出土銭貨拓本・X線写真（1：1）

表2 F区出土銭貨一覧表

番号	調査区	グリッド	遺構	銭貨名	国・王朝	初鑄年	縦(mm)	横(mm)	厚(mm)	備考
M1	00F	IG14i	SK51	政和通寶	北宋	1111	24.77	24.53	1.50	背下月?
M2	00F	IG14i	SK51	宣和通寶	北宋	1119	25.12	25.31	1.19	
M3	00F	IG14i	SK51	〇〇元寶			24.73	24.25	1.81	
M4	00F	IG14i	SK51	聖宋元寶	北宋	1101	24.95	25.18	1.35	
M5	00F	IG14i	SK51	●符元寶	北宋	1009	25.03	25.19	1.78	
M6	00F	IG14i	SK51	開元通寶	南唐	960	25.37	25.20	1.66	
M7	00F	IG14i	SK51	元豐通寶	北宋	1078	24.43	24.59	1.30	
M8	00F	IG14i	SK51	至道元寶	北宋	995	24.99	24.99	1.36	
M9	00F	IG14i	SK49	治平通寶	北宋	1064	(24.12)	24.95	1.48	



第37図 F区出土遺物実測図 (1:4)

(8) H区

第1面としての明確な遺構群を検出することはできなかった。また地山面が標高6.2 m前後と、G区に比べて1 m近く、I区と比較しても0.3 m程低くなり、第2面の遺構・遺物も少ない。

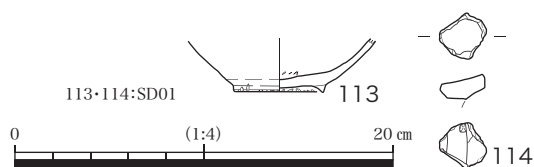
第2面 (第43図)

方形土坑

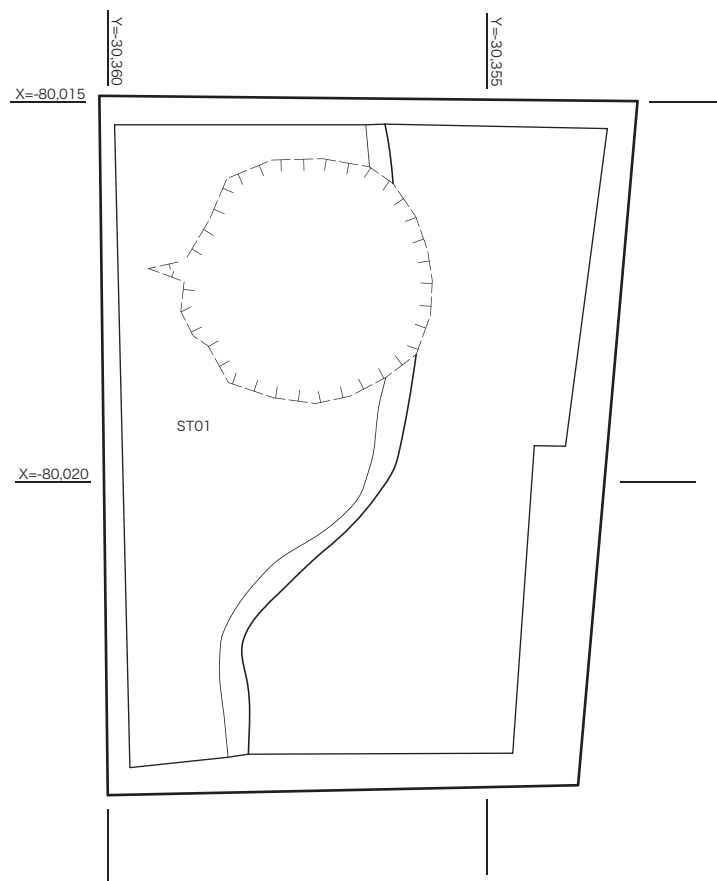
SK01は長径100cm・短径63cm・深さ10cmを測り、平面形が隅丸方形を呈し小型であるが、長径155・深さ13cmを測るSK02を含め、15世紀の「方形土坑」と考えられる。SD01は13世紀の溝。

遺物 (第42図)

SK01出土の115は第IX期北部系山茶碗、116は南部系山茶碗の底部を使用した加工円盤になる。



第38図 G区出土遺物実測図 (1:4)



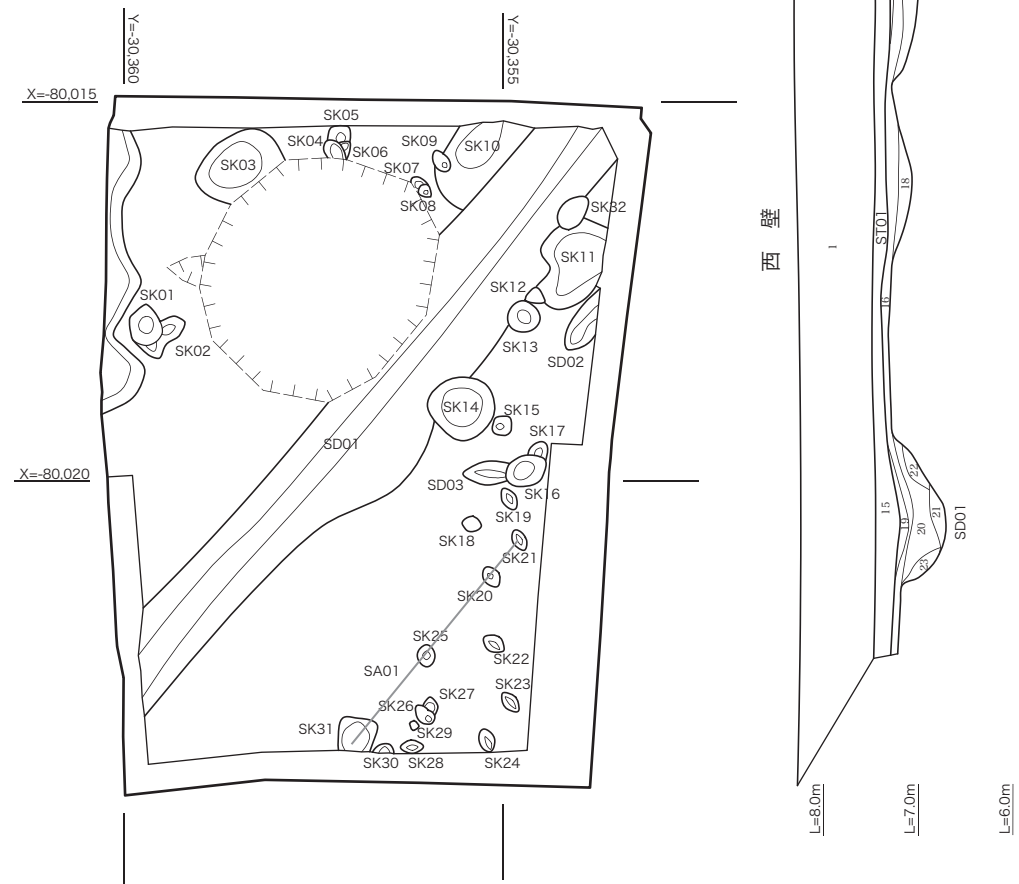
第39図 G区第1面遺構図 (1 : 100)



写真14 G区

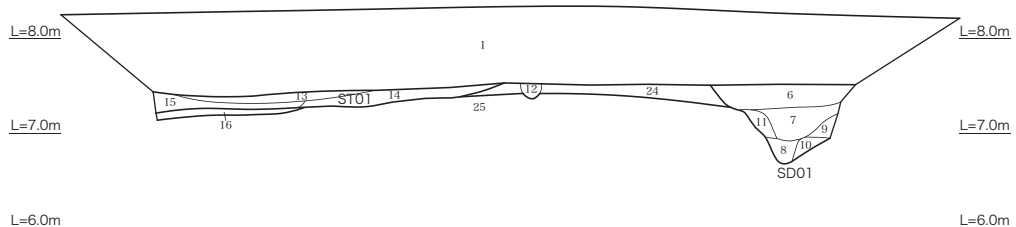
1 : 第1面 2 : 第2面 3 : SD01土層断面 4 : SD01遺物出土状態

- G区 調査区壁
- 1 盛土、砂利散石
 - 2 10YR8/6黄褐色砂、粗砂+10YR5/4にふい黄褐色砂(3~10cm)を含む
 - 3 10YR8/6黄褐色砂、粗砂+10YR5/4にふい黄褐色砂攪乱(3~5cm)
 - 4 10YR5/4にふい黄褐色砂
 - 5 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 6 10YR5/4にふい黄褐色砂
 - 7 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 8 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂攪乱(5~10cm)
 - 9 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 10 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR5/4にふい黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 11 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 12 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 13 10YR5/4にふい黄褐色砂、しまりが少ない
 - 14 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+円礫(5~20cm)を多く含む
 - 15 10BG5/1青灰色砂
 - 16 10YR5/4にふい黄褐色砂+鉄分含む
 - 17 10YR8/2灰白色砂、やや粗砂
 - 18 10YR8/6黄褐色砂、粗砂+10YR5/4にふい黄褐色砂攪乱(5~10cm)、ややしまりが少ない
 - 19 10YR6/1褐灰色砂、やや粗砂
 - 20 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 21 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR5/4にふい黄褐色砂ブロック(3~5cm)を含む
 - 22 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂攪乱(5~10cm)
 - 23 10YR5/4にふい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂ブロック(3~5cm)をわずかに含む

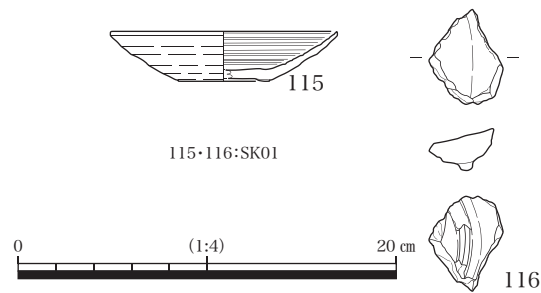


第40図 G区第2面遺構図 (1:100)

北壁



第41図 G区西壁・北壁土層断面図 (1:80)



第42図 H区出土遺物実測図 (1:4)

(9) I区

第1面 (第45図)

江戸後期～明治期の水田跡である、幅 400～500cm・深さ 3～10cm の連続する方形区画が 6 区画確認された。ST06 部分では 5 基の土坑が検出されている。

水田跡

第2面 (第46図)

第1面の水田跡床面の直下から掘り込まれた溝 SD01 (第49図) が検出された。幅 130cm・深さ 30cm を測る SD01 は、下端西側には土坑列がみられ、時期は江戸時代後期以降になる。

SD01

第3面 (第47図)

明黄褐色砂を挟んだ約 30cm 下位で SD02・03 が検出された (第50図)。SD02 は幅 100・深さ 60cm、SD03 は幅 120cm・深さ 65cm で、第2面で検出された SD01 とほぼ同じ位置で同じ方向を向く。また南東部は明黄褐色砂によって削平を受けて残存していない。時期は江戸時代後期か。この SD02・03 と直交するように、幅 150cm・深さ 35cm を測る溝 SD04 がある。

溝群

中世期の「方形土坑」と思われるものとして、SK13・15 が検出されるが、出土遺物からは確定できなかった。

方形土坑

遺物 (第51・52図)

ST06 出土の 117 は灰釉が施される江戸時代後期の丸皿。SK10 出土の 118 と SD02 出土の 120 は、常滑製品の三筋壺。SD01 出土の 119 は硯片で、側面が破損後に研磨されている。SD03 出土の 121 は内面と体部上半に灰釉が施される椀、SD04 出土の石製品 (122) は上下面と側面の一部が研磨されている。124 は須恵器杯蓋のつまみ部、125 は蓮弁文をもつ青磁椀、126 は常滑製品の羽釜になる。127 は灰釉が、132 は鉄釉が施された壺。129 は常滑製品の甕口縁、130・131 は土師質の茶釜形鍋と内耳鍋、M10 は鉄製の刀子になる。加工円盤は、山茶碗の底部部分を打ち欠いて整形しているものが多いが、164 は山茶碗、163・165 は鉄釉施釉製品の体部を加工している。また 163・157 は側面に研磨がみられる。

加工円盤

第43図 H区第2面遺構図

(1 : 100)

H区 調査区壁

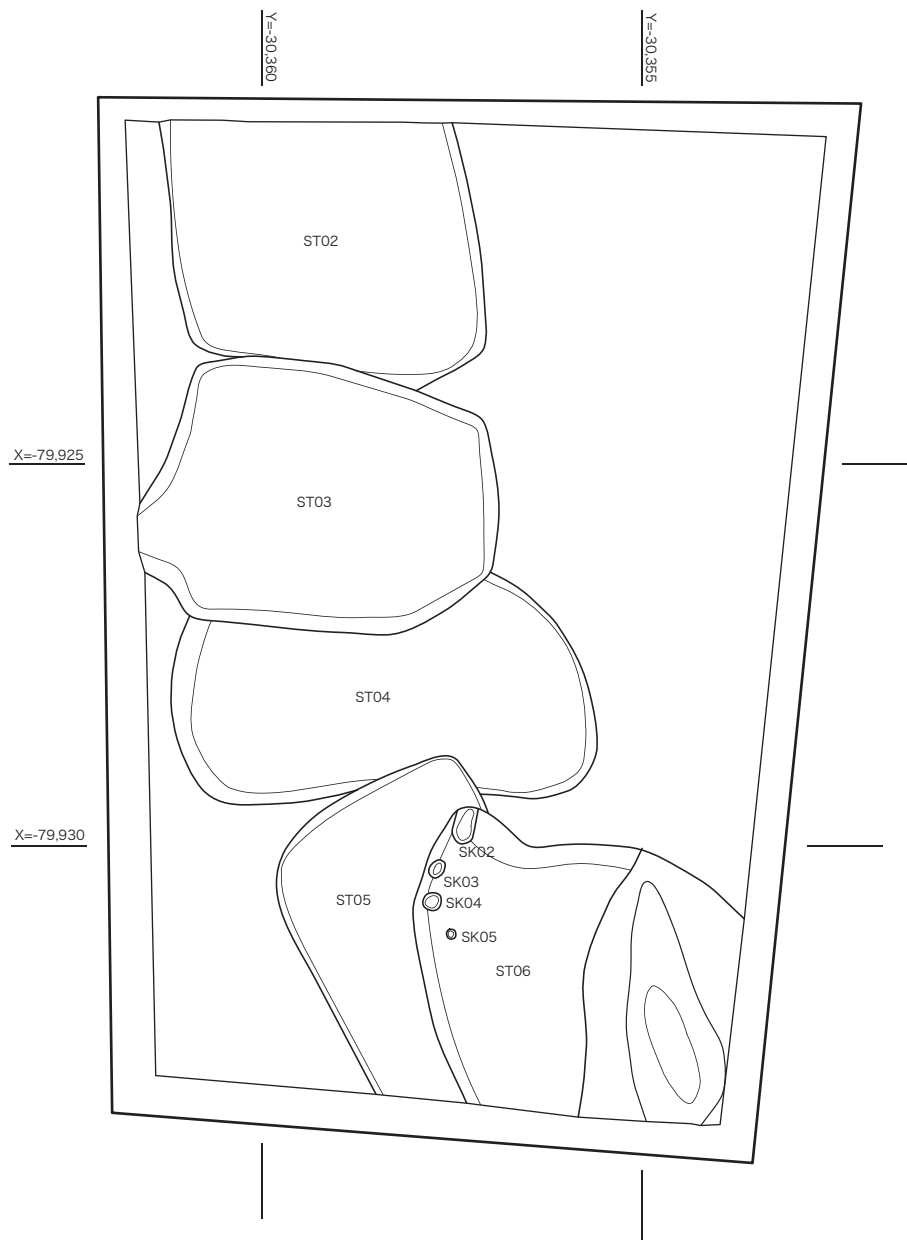
- 1 盛土、砂利敷石
- 2 10YR5/4にぶい黄褐色砂、砂質強い
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色砂
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 5 10YR4/4褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(3~5cm)を多く含む
- 6 5で砂質強い
- 7 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂
- 8 10YR4/4褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 9 10YR56/6明黄褐色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂ブロック(5~10cm)を含む
- 10 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、やや粗砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂、やや粗砂 わずかに互層
- 11 10YR4/4褐色砂
- 12 10YR3/4暗褐色砂、やや粗砂
- 13 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、やや粗砂+10YR3/4暗褐色砂、やや粗砂ブロック(5~10cm)を含む
- 14 10YR4/4褐色砂、やや粗砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂、やや粗砂ブロック(1~3cm)を含む

第44図 H区西壁・南壁土層断面図 (1 : 80)



写真15 H区

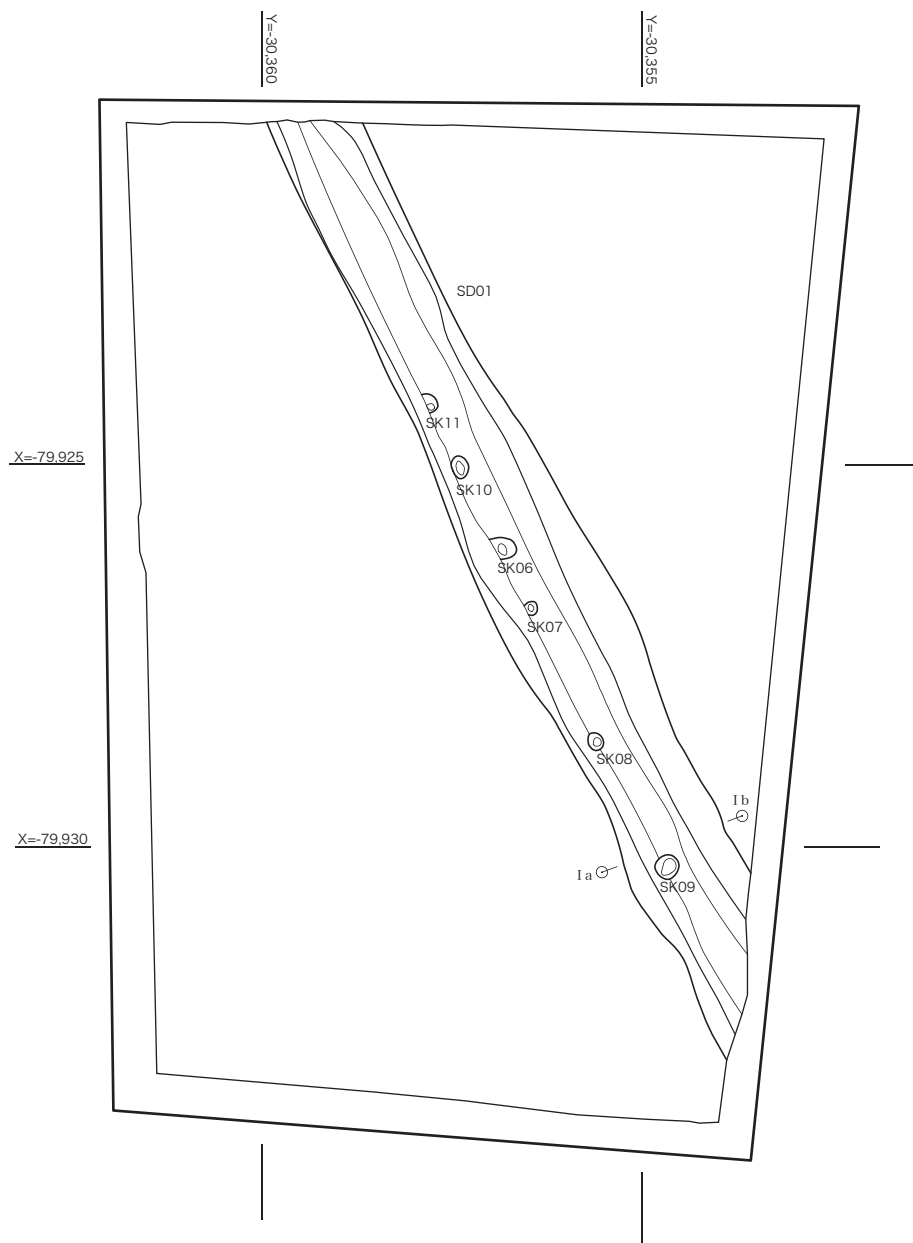
1 : 第2面 2 : 深堀り 3 : SK01遺物出土状態 4 : SK02遺物出土状態



第45図 I区第1面遺構図 (1 : 100)



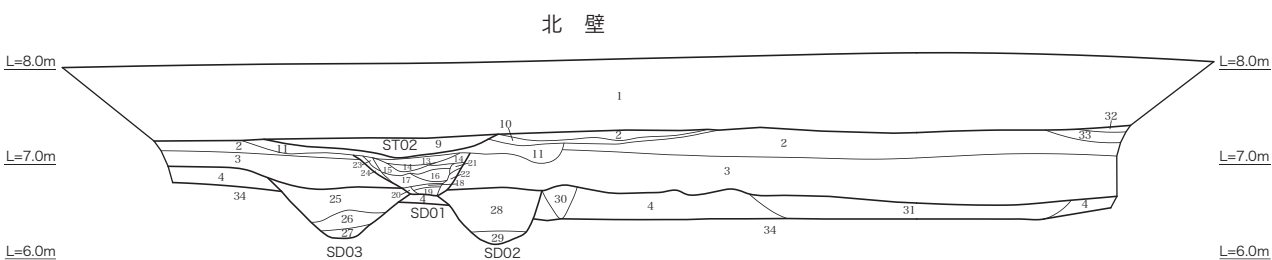
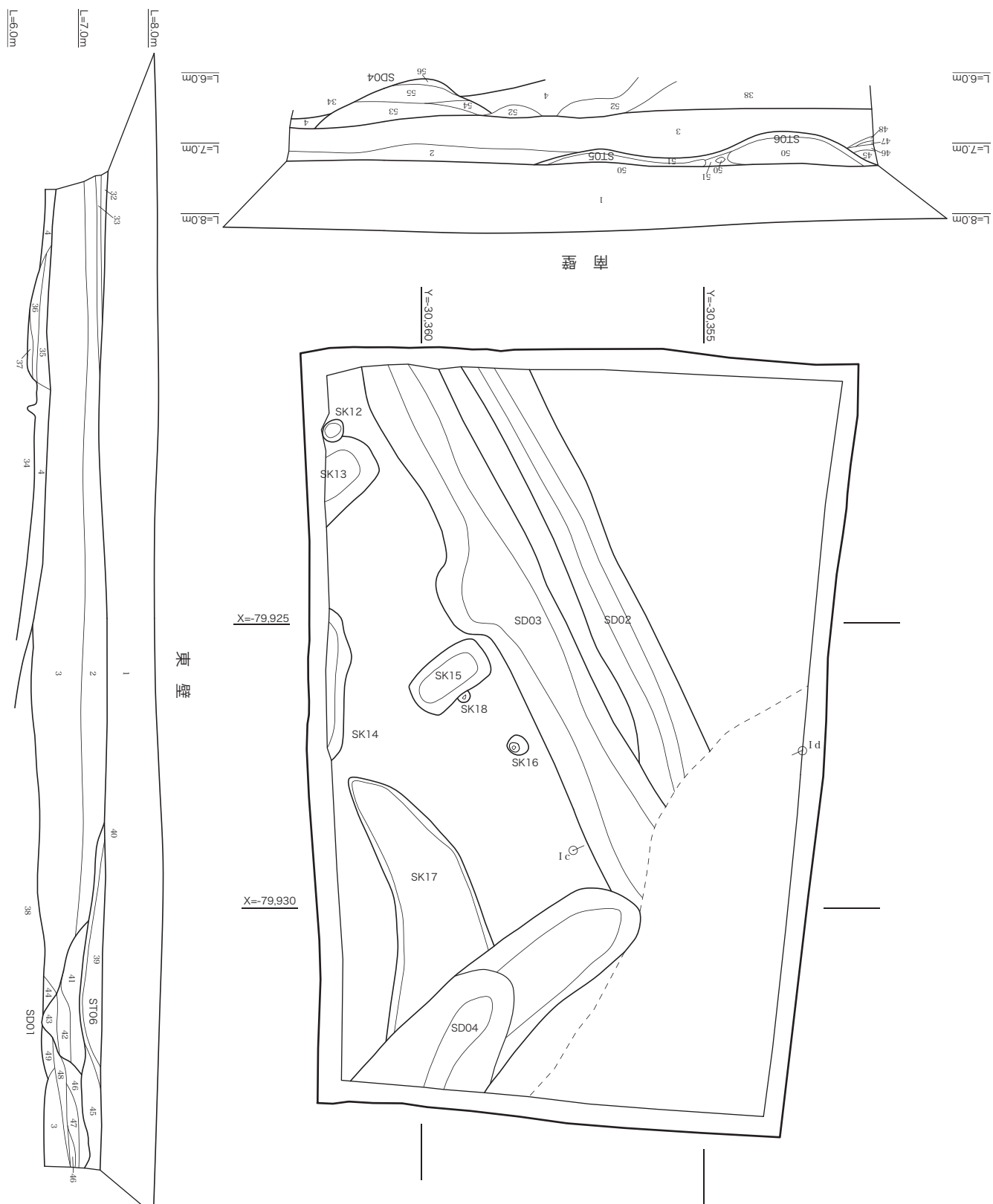
写真16 I区第1面 1・2 : 第1面



第46図 I区第2面遺構図 (1 : 100)



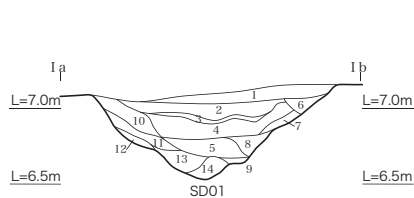
写真17 I区第2面 1・2：第2面



- I区 調査区壁
- 1 盛土、砂利敷層
 - 2 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/4浅黄褐色砂ブロック(1~2cm)を多く含む
 - 3 10YR6/6明黄褐色砂
 - 4 2.5GY8/1灰白色砂、粗砂+10YR6/6明黄褐色砂、やや粗砂混乱(5~10cm)
 - 5 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(1~2cm)を含む
 - 6 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(5~10cm)を含む
 - 7 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(1~2cm)を含む
 - 8 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(1~2cm)を含む
 - 9 5G7/1明緑灰色砂、やや粘質
 - 10 10YR6/4にぶい黄褐色砂+鉄分を多く含む
 - 11 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/2灰白色砂ブロック(1~2cm)を多く含む
 - 12 欠番
 - 13 10YR5/4にぶい黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
 - 14 5B7/1明青灰色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂混乱(1~3cm)
 - 15 5B7/1明青灰色砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂ブロック(1~2cm)を含む
 - 16 5B7/1明青灰色砂、やや粗砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂、やや粗砂+鉄分 互層
 - 17 10YR5/4にぶい黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む
 - 18 5B7/1明青灰色砂、やや粗砂+10YR5/4にぶい黄褐色砂、やや粗砂+鉄分 互層
 - 19 10YR5/4にぶい黄褐色砂、粗砂+5B7/1明青灰色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 20 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1cm以下)を含む
 - 21 10YR5/4にぶい黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
 - 22 10YR5/4にぶい黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 23 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1cm以下)を含む
 - 24 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む やや互層
 - 25 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
 - 26 10YR6/8明黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 27 10YR6/8明黄褐色砂、粗砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(1~3cm)を多く含む
 - 28 10YR6/8明黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY8/1灰白色砂、やや粗砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 29 10YR6/8明黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY8/1灰白色砂、やや粗砂ブロック(1~3cm)を多く含む やや互層
 - 30 10YR6/8明黄褐色砂

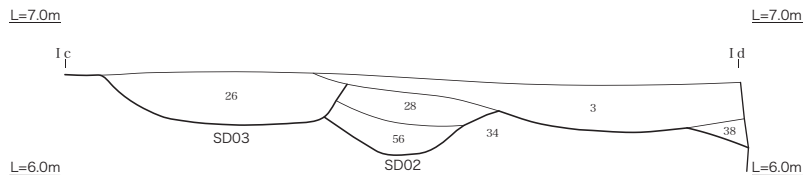
- 31 10YR6/8明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を含む
- 32 10BG6/1青灰色砂
- 33 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/4浅黄褐色砂ブロック(1~2cm)+粒状の鉄分(0.5cm以下)を多く含む
- 34 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂
- 35 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(1~2cm)を含む
- 36 10YR6/6明黄褐色砂+2.5GY8/1灰白色砂、粗砂ブロック(3~5cm)を多く含む
- 37 2.5GY7/1明オリブ灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(1~3cm)を含む
- 38 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 39 10YR7/1明緑灰色砂
- 40 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/4浅黄褐色砂ブロック(1~2cm)+粒状の鉄分(0.5cm以下)を多く含む
- 41 10YR6/6明黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂、やや粗砂ブロック(1~3cm)を含む
- 42 10YR6/6明黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂、やや粗砂+10YR8/2灰白色砂、粗砂 やや互層
- 43 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(3~5cm)をわずかに含む
- 44 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 45 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂+鉄分 やや互層
- 46 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/2灰白色砂、粗砂 やや混乱状
- 47 10YR6/6明黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む
- 48 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/2灰白色砂、粗砂 わずかに互層
- 49 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(3~5cm)をわずかに含む+鉄分(0.5cm以下)の層状堆積
- 50 5GY7/1明オリブ灰色砂+10BG7/1明青灰色砂
- 51 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/4浅黄褐色砂ブロック(1~2cm)+粒状の鉄分(0.5cm以下)を多く含む
- 52 10YR6/6明黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む
- 53 10YR6/6明黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(3~5cm)を含む
- 54 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂 やや互層
- 55 10YR6/6明黄褐色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 56 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(3~5cm)を多く含む

第48図-2 I区東壁・北壁土層断面土色



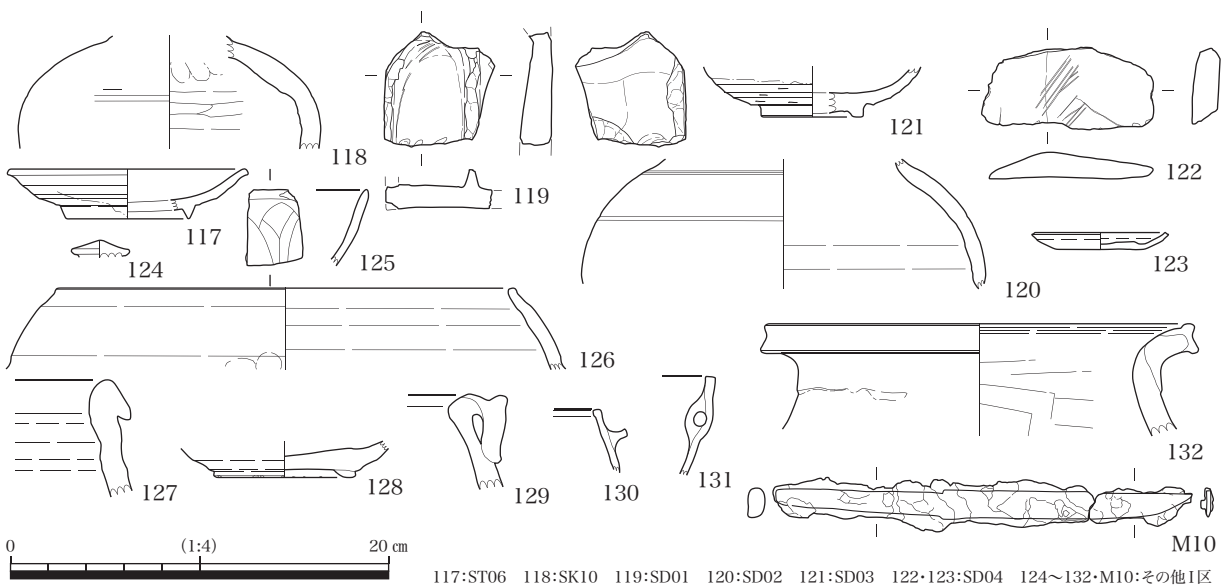
- I区 SD01
- 1 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1~2cm)を含む
 - 2 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂 やや互層
 - 3 10YR8/4浅黄褐色砂、やや粗砂+10YR6/6明黄褐色砂 互層
 - 4 10G7/1明緑灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂 やや互層
 - 5 10G7/1明緑灰色砂+10YR6/6明黄褐色砂 互層
 - 6 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
 - 7 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 8 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む
 - 9 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1~3cm)を含む
 - 10 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む わずかに互層
 - 11 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む 互層
 - 12 10YR8/2灰白色砂、やや粗砂+10YR6/6明黄褐色砂 互層
 - 13 10YR6/6明黄褐色砂+10YR8/2灰白色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む 互層
 - 14 10YR6/6明黄褐色砂+10G7/1明緑灰色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む、砂質強い

第49図 I区SD01土層断面 (1:50)



- 3 10YR6/6明黄褐色砂
- 26 10YR6/8明黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY8/1灰白色砂、やや粗砂ブロック(1cm以下)を含む
- 28 10YR6/8明黄褐色砂、やや粗砂+2.5GY8/1灰白色砂、やや粗砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 34 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂
- 38 10YR5/4にぶい黄褐色砂+2.5GY7/1明オリブ灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む
- 56 2.5GY7/1明オリブ灰色砂、粗砂+10YR6/6明黄褐色砂ブロック(3~5cm)を多く含む

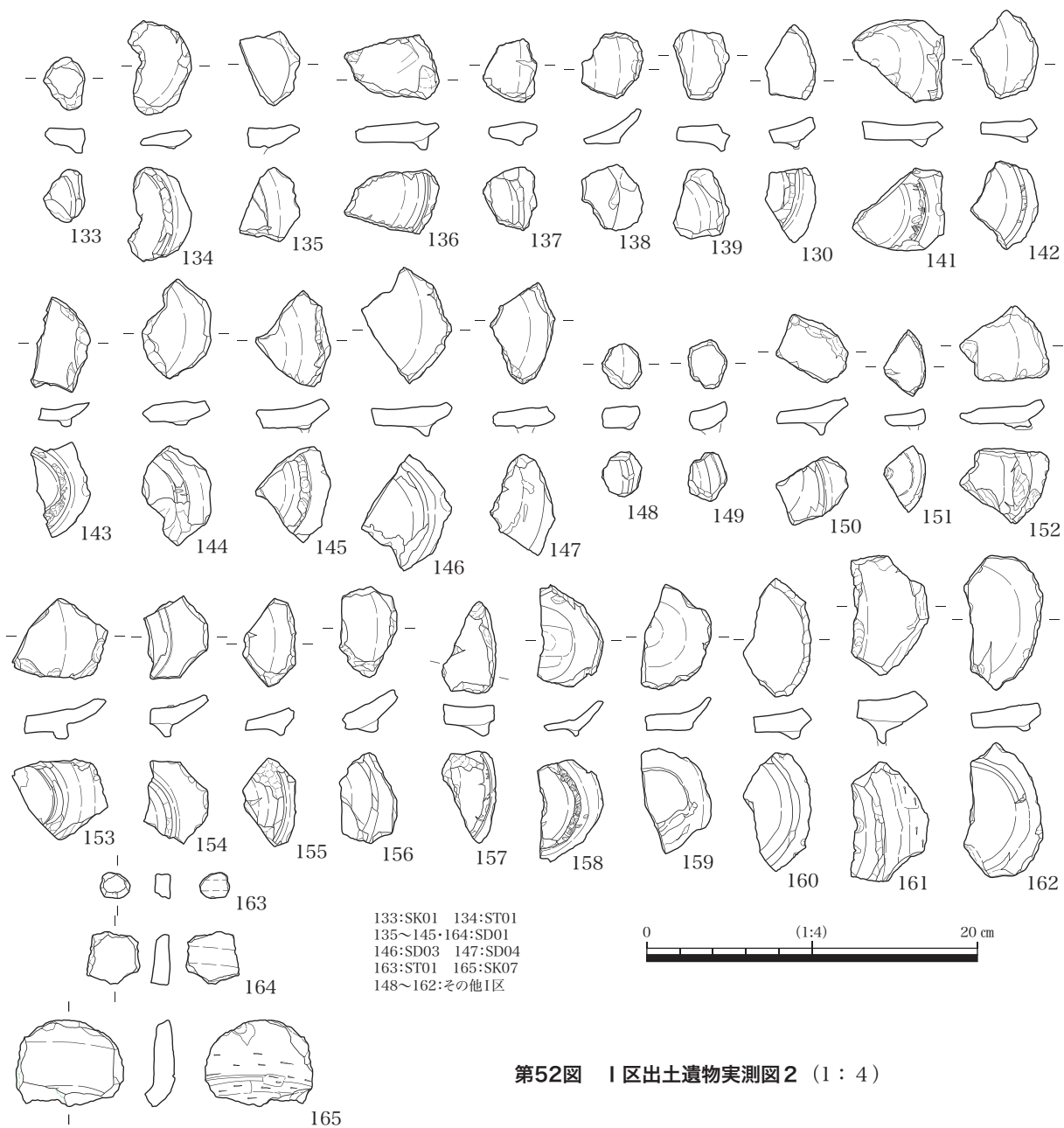
第50図 I区SD02・03土層断面 (1:50)



第51図 I区出土遺物実測図1 (1:4)



写真18 I区第3面 1・2：第3面



第52図 I区出土遺物実測図2 (1:4)

(10) J 区

第1面 (第53図)

水田跡

調査区北西部と北東部で4区画の水田跡と思われる区画(ST01～04)と、土坑(SK01)、溝(SD01)を検出している。時期は江戸時代後期～明治期か。

第2面 (第54図)

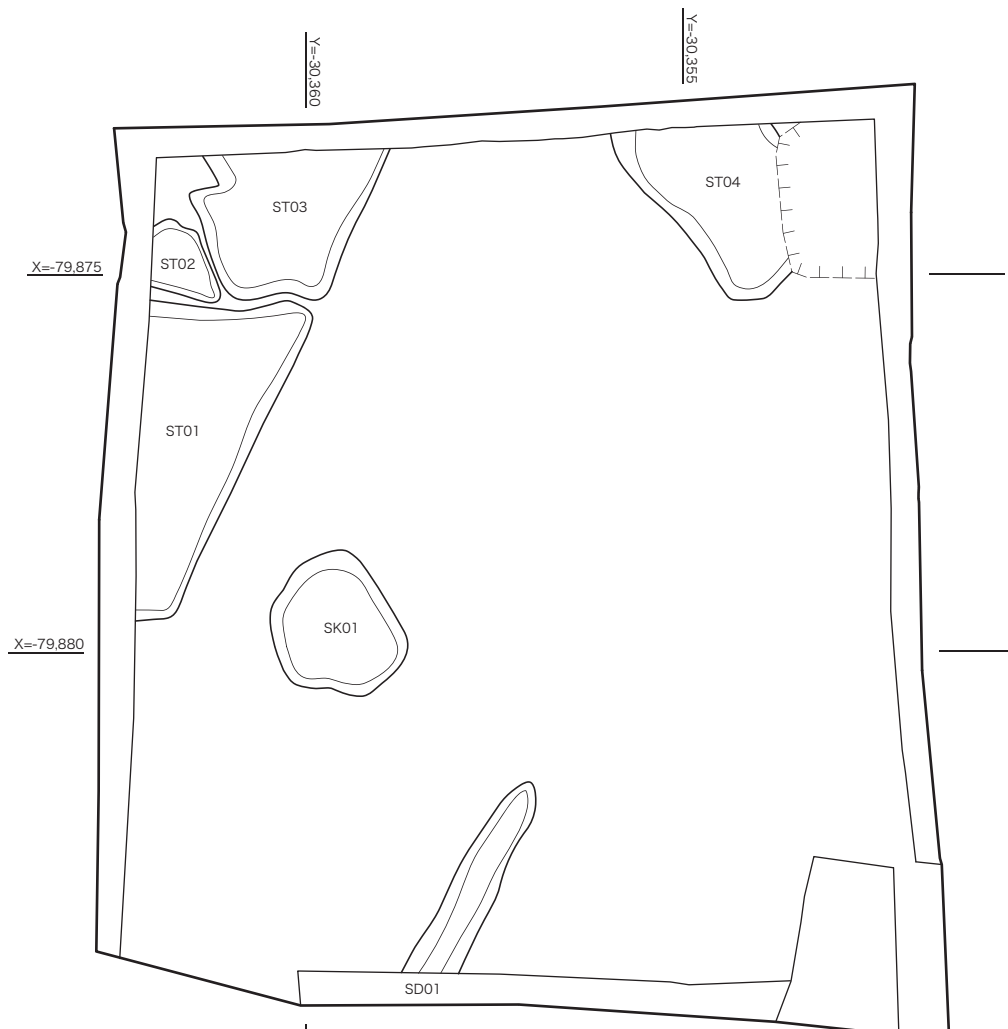
SK02

方形土坑

円形を呈するSK02は径140cm・深さ60cmを測り、上層より176の北部系山茶碗が出土している。時期は15世紀。SK09・11については、中世期の「方形土坑」になる可能性があるが、出土遺物では確定できなかった。

遺物 (第56図)

SK02出土の166は北部系第IX期の山茶碗、167は常滑製品の玉縁口縁壺、SK10出土の168は口縁部がヨコナデ調整される土師質皿、SD01出土の169は江戸後期の灰釉が施された皿になる。SK22出土の170は、焼き締め陶の体部を用いた加工円盤、171は上・側面に磨痕、側・下面に敲打痕がみられる石製品で、ST04出土の176も敲打の痕跡が残る。ST01出土の172は南部系山茶碗第3型式の小碗、173は陶丸、ST03出土の174はヨコナデ調整される土師質皿、175は第X期の北部系山茶碗。177～180は北部系山茶碗、181は土師質皿、182・184は青磁碗・183は白磁碗、186・188は土師質の羽釜、187は鉄釉が施された瓶、189・190は鉄釉の搗鉢、191は灰釉がかかる丸碗、192は鉄釉壺になる。193～196の加工円盤のうち、193は鉄釉製品を整形しており、側面に研磨がみられる。



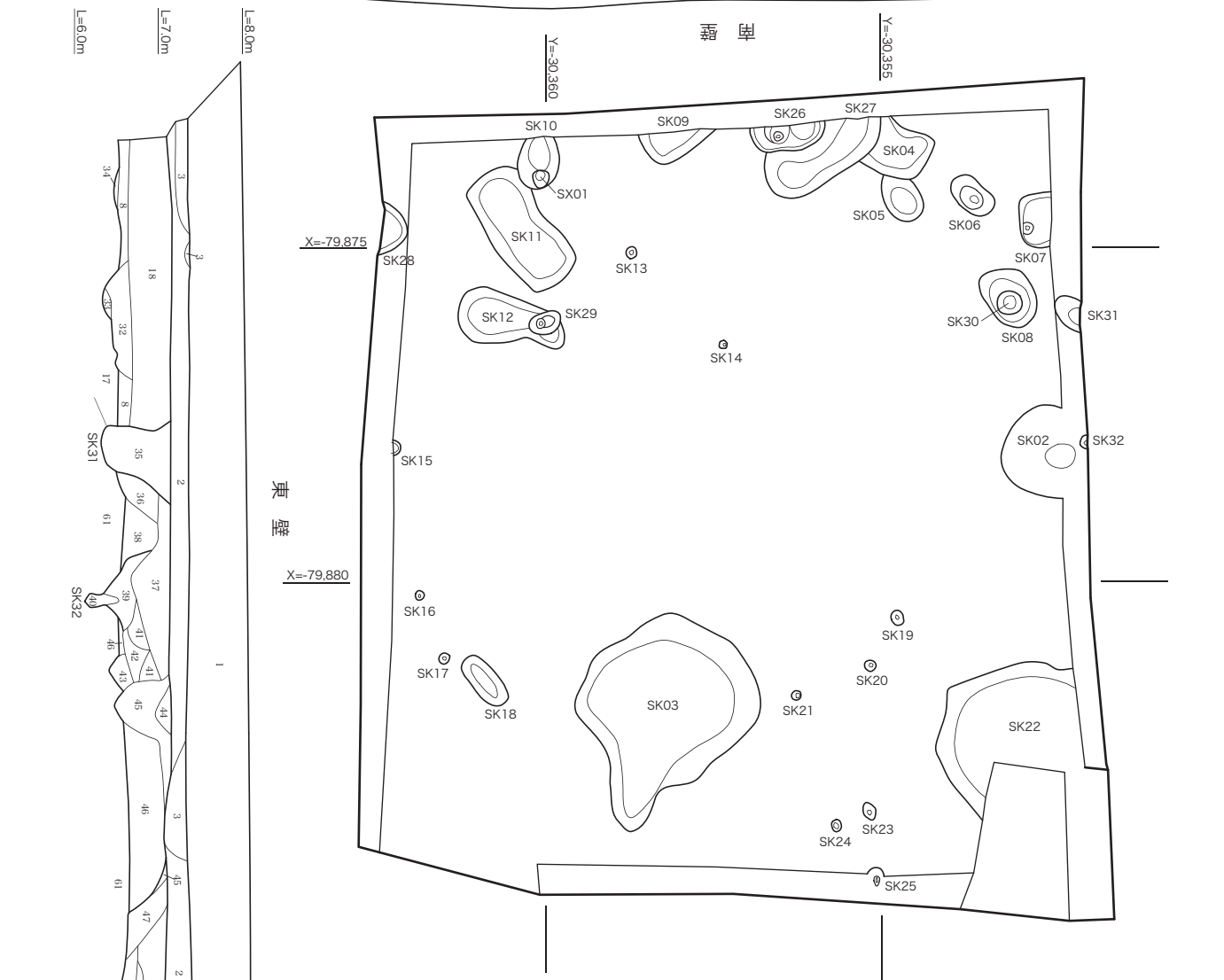
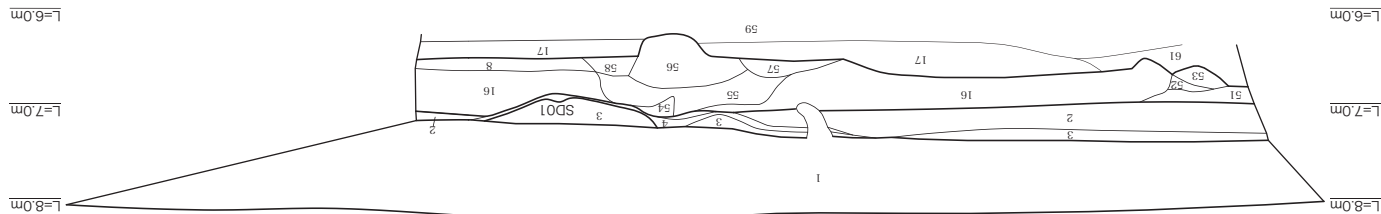
第53図 J区第1面遺構図

(1 : 100)



写真19 J区

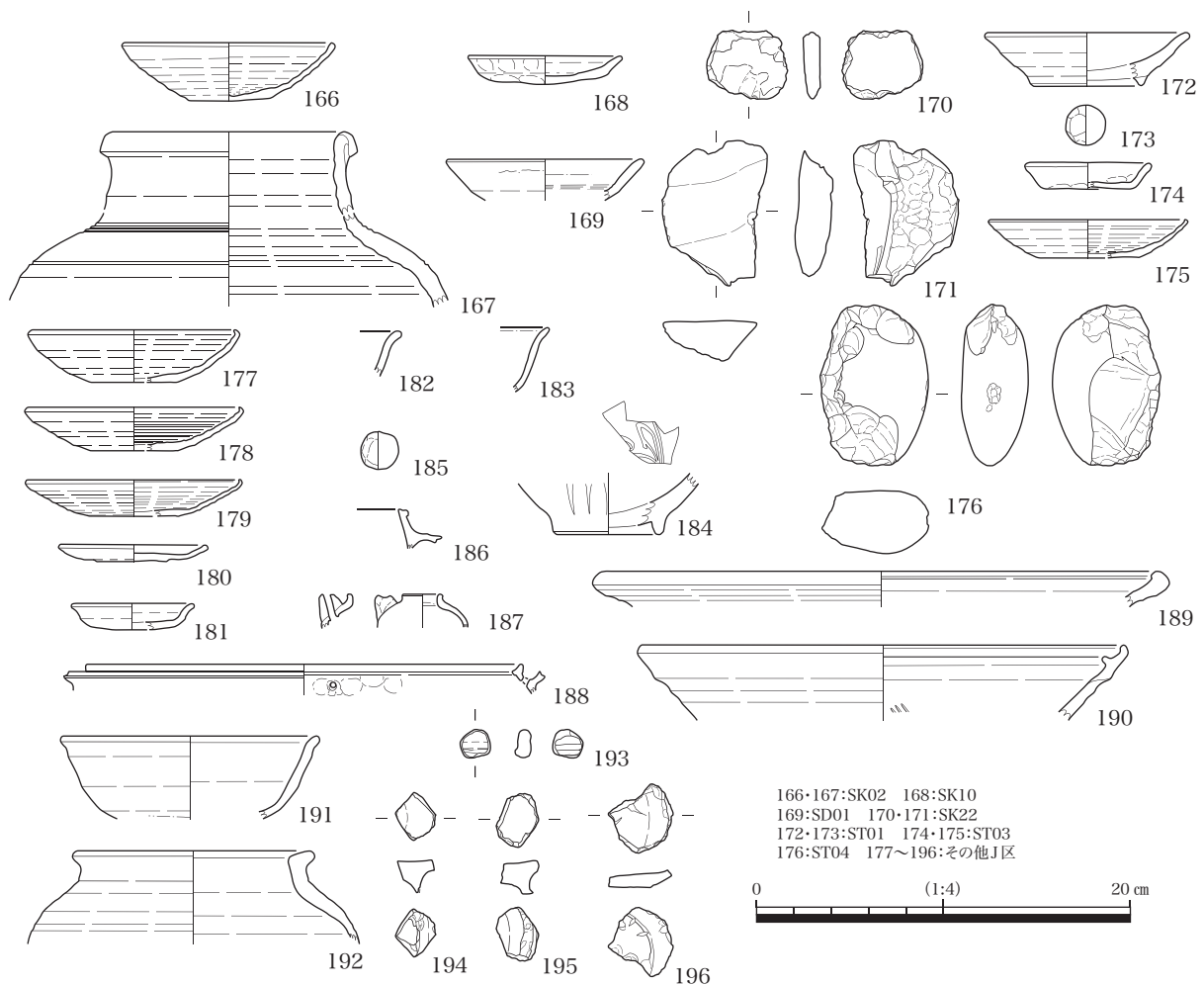
1 : 第1面 2 : SK02遺物出土状態 3・4 : 第2面



第54図 J区第2面遺構図 (1:100)

- | | | |
|---|----|--|
| J区 調査区壁 | 45 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂+10YR8/4浅黄橙色砂攪乱(1~3cm) |
| 1 盛上、砂利敷層 | 46 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を多く含む |
| 2 10YR5/8黄褐色色砂 ややしまりがない | 47 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む |
| 3 2.5GY6/1オリーブ灰色砂 | 48 | 10YR6/6明黄褐色色砂 |
| 4 10YR6/6明黄褐色色砂、鉄分を含む | 49 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む |
| 5 10YR6/6明黄褐色色砂、鉄分をやや多く含む | 50 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む |
| 21 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~2cm)を含む | 51 | 10YR5/4にふい、黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む+炭化物 |
| 22 2.5GY8/1灰白色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1cm)をわずかに含む | 52 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1cm以下)を多く含む |
| 23 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~2cm)を多く含む+炭化物 | 53 | 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~3cm)を含む |
| 24 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂攪乱(3~5cm) | 54 | 10YR6/6明黄褐色色砂 |
| 25 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~2cm)を多く含む+炭化物、粘質強い | 55 | 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~3cm)を含む |
| 26 2.5GY8/1灰白色砂+10YR6/6明黄褐色色砂攪乱(3~5cm) | 56 | 10YR5/4にふい、黄褐色色砂、粘質強い |
| 27 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~2cm)を含む | 57 | 2.5GY8/1灰白色シルト+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む |
| 28 10YR8/4浅黄橙色シルト | 58 | 2.5GY8/1灰白色シルト |
| 29 10YR6/2灰黄褐色色砂 | 59 | 10YR4/4褐色色砂、やや粗砂+2.5GY7/1明オリーブ灰色砂、粗砂 やや互層になる |
| 30 10YR6/2灰黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~2cm)を含む | 60 | 2.5GY7/1明オリーブ灰色砂、粗砂+10YR4/4褐色色砂、やや粗砂 やや互層になる |
| 31 10YR6/2灰黄褐色色砂+10YR6/6明黄褐色色砂攪乱(3~5cm) | 61 | 10YR8/2灰白色シルト |
| 32 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1cm)を含む | | |
| 33 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1cm)を多く含む | | |
| 34 10YR6/6明黄褐色色砂+2.5GY8/1灰白色砂ブロック(1~2cm)を含む | | |
| 35 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~2cm)+10YR8/4浅黄橙色砂ブロック(1~2cm)を多く含む | | |
| 36 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む | | |
| 37 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂+10YR8/4浅黄橙色砂攪乱(1~3cm) | | |
| 38 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1cm以下)を含む | | |
| 39 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1cm以下)をわずかに含む | | |
| 40 10YR5/4にふい、黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(3~5cm)を含む | | |
| 41 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1~3cm)を含む | | |
| 42 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(1~3cm)をわずかに含む | | |
| 43 5B7/1明青灰色砂+10YR6/6明黄褐色色砂ブロック(3~5cm)を含む | | |
| 44 10YR6/6明黄褐色色砂+5B7/1明青灰色砂ブロック(1~2cm)+10YR8/4浅黄橙色砂ブロック(1~2cm)を多く含む | | |

第55図 J区東壁・南壁土層断面図 (1:80)



第56図 J区出土遺物実測図 (1:4)

第4章 まとめ

島崎遺跡は、青木川に沿って、右岸に形成された自然堤防上に立地する。自然堤防は幅約 500 m を測り、北東から南西に帯状に延びる。南から南東側は青木川、北から北西は千間堀川などの旧流路がみられ、低地部分になっている。特に北から北西については、流域の変化などで、旧流路は蛇行した複雑な様相を示し、不安定な地盤の地域であったことが判る (第 57 図)。

遺跡はこの細長い自然堤防帯のほぼ中央部の、最も高位と思われる部分に立地する。また遺跡の中心部と考えられる C～G 区は、その中でもさらに高い場所に営まれている (第 57 図)。

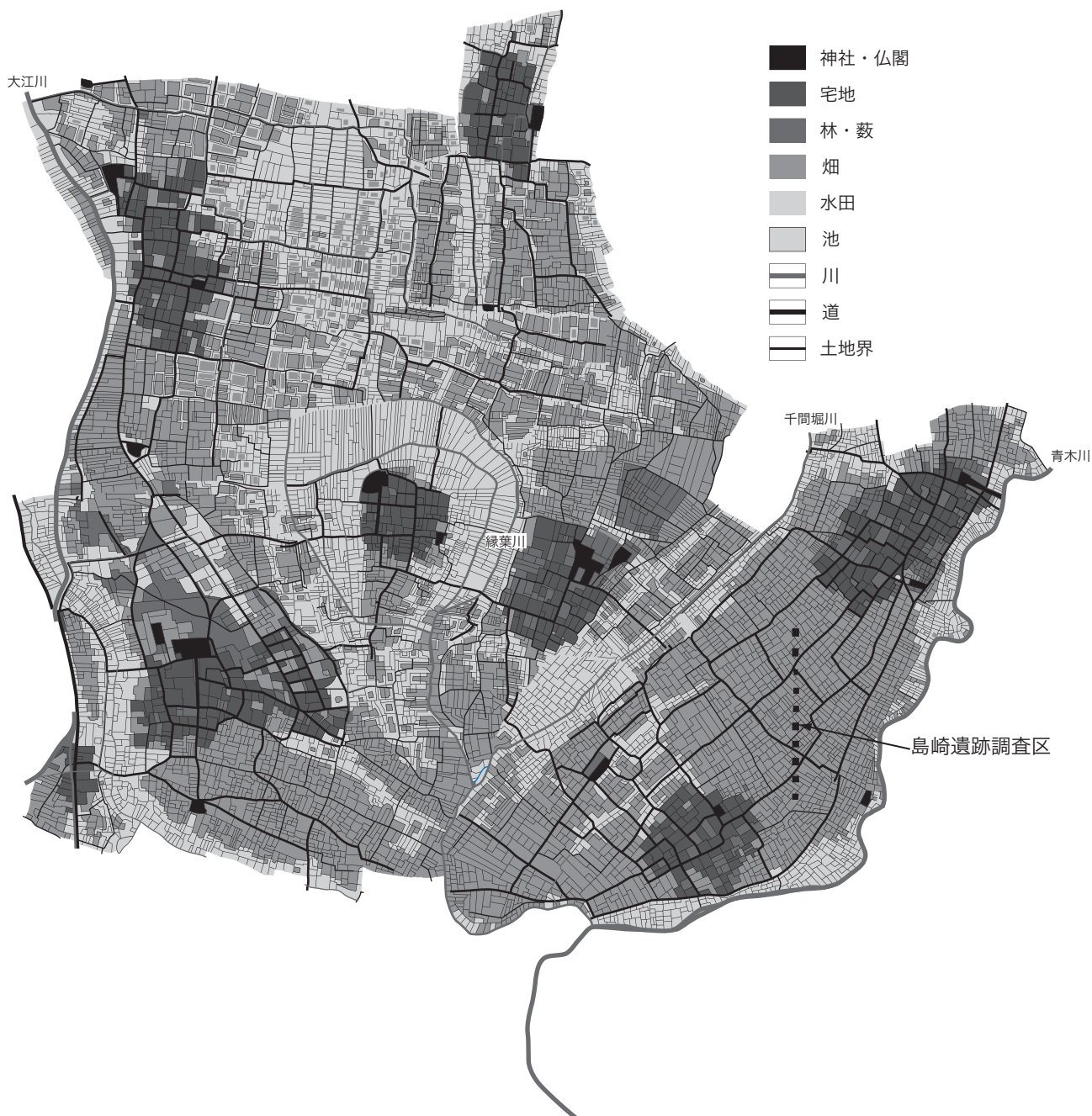
遺物は古墳時代・古代から江戸時代・明治までみられるが、遺構の主体は 12 世紀後半～15 世紀前半の中世期である。中世期の遺構配置は概ね、井戸が検出された D・E 区を中心に、溝が掘削される B・G までの範囲が居住域、その南北の低地部が方形土坑で構成される墓域と考えられる (第 59 図)。次に中世期の遺構変遷であるが、このことを考える前に、調査地点の中央部は遺構上位が、南北の低地部は下位に至るまで江戸期以降の掘削で遺構が削平されていることを、考慮にいれておく必要がある。遺物からみると、12 世紀後半～13 世紀にかけては A～G 区に、14 世紀前半はやや希薄で、14 世紀後半～15

地形と立地

居住域

低地部

墓域 (方形土坑)

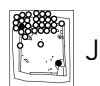


第 57 図 明治 17 年地籍図

(丹羽郡平島村・外寄村・吾鬘村・馬見塚村・猿海道村・森本村・多加木村に加筆)

中世 1 期

世紀前半にかけては H～J 区に分布の中心がある。12 世紀後半～13 世紀の遺物が分布する A～G 区の中で E 区を見てみると、溝 (SD03・05・07・08) →井戸 (SK05) の切り合いが確認され、遺構変遷に 2 時期あることが判る。このことは D 区の井戸と合わせ、井戸が 2 ヶ所あることと関連する可能性がある。また G 区の溝 SD01・削 SA01 も E 区の溝と同方向 (N-40°-E) を向いている。このことから当初の遺構配置は、これらの溝で区画された居住域であったと想定され、D 区の井戸 (SK14) や大型土坑 (SK51) や C 区の掘立柱建物 (SB01)、さらに E 区南西の掘立柱建物になる可能性ある部分 (SB01) が居住域内の施設ということになる。また B 区 SX01 は、N-31°-E と方向はややずれるが、低地部との境界に区画のため掘削された溝、または皿状の断面を呈することから



J



I



H



G



F



E



D



C



B



A

みて、大型土坑（池？）が想定される。次の段階に、E区に井戸が設置される。この時期の区画溝はB区・G区の溝がそのまま存続していたとも考えられるが、やや方向の違う（N-54・64°-E）C区溝SD02・F区柵SA01～03がそれにあたるとも考えられる。

墓域にあたりと考えられる方形土坑群は、遺物がきわめて少なく時期の決定が難しい。全ての土坑軸線は北東-南西を向く。H区～J区の北側の低地部にあるものは14世紀後半～15世紀前半に作られた可能性が高く、A区～G区の南側のものについては居住域内に設置されたか、区画溝を挟んで居住域と隣接していたか、14世紀後半～15世紀前半になって北側の一群とともに作られたのは不明である。

加工円盤の分布を第58図に示した。加工・整形された土器で時期が推定できるものは大部分が中世期のもので、20のような江戸期に降るものは稀で、全面が研磨されており、他の加工円盤とは別類の可能性も考えられる。分布は居住域の中心のE・F区と低地部にあたるI・J区とA・B区になる。特にI・J区ではまとまっているが、江戸期以降の削平の影響も考慮にいれる必要があるであろう。

江戸期になると、低地部に溝が設置され（A区SD04～07、I区SD01～04）、さらに江戸後期以降は全域が水田域として利用されていく。

これら中世から江戸、明治に至るまで、島崎遺跡の遺構群は、青木川に沿った自然堤防の形状にきわめて大きく影響され形成されている。中世の尾張地方では、南北方位に合わせた遺構配置・集落景観を持つ遺跡も見られるが、島崎遺跡の場合は比較的安定的な地形条件を活かし、それに合わせた集落形態を持つ遺跡であるということが言える。

参考文献

中野晴久1994「赤羽・中野「生産地における編年について」」『中世常滑焼をおって』資料集 日本福祉大学知多半島総合研究所

中野晴久1995「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館

藤澤良祐1990「瀬戸地方の北部系山茶碗窯」『尾呂』瀬戸市教育委員会

藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 3』三重県埋蔵文化財センター

藤澤良祐1990「瀬戸地方の北部系山茶碗窯」『尾呂』瀬戸市教育委員会

藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 3』三重県埋蔵文化財センター

○ 加工円盤底部

● 加工円盤体部

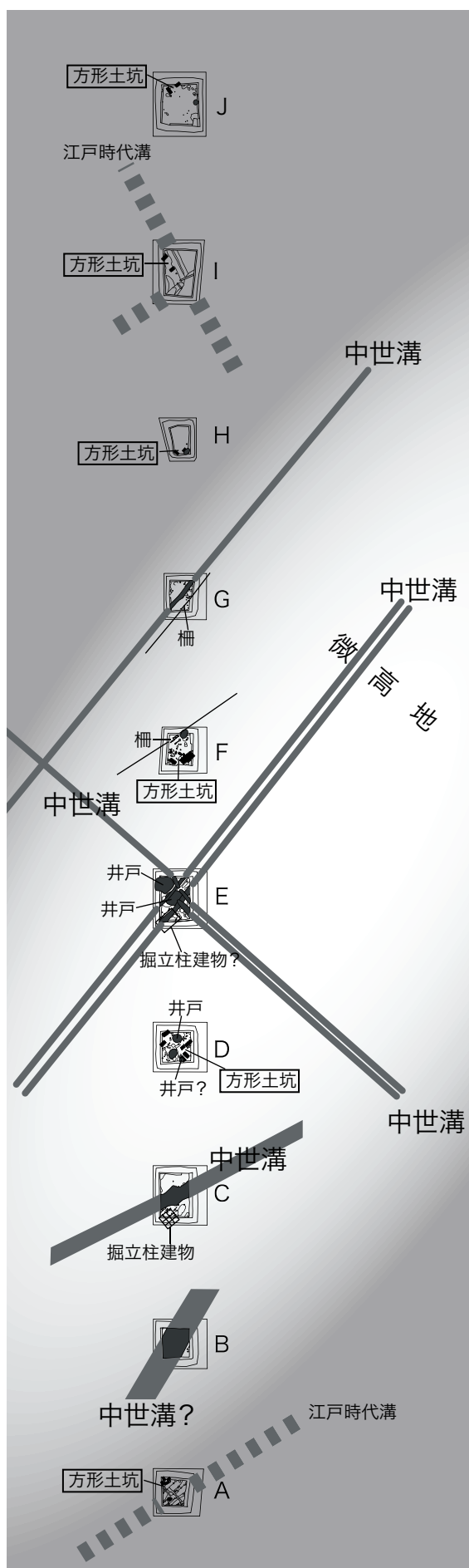
中世2期

方形土坑群

加工円盤

江戸期

第58図 加工円盤分布図（1：1800）



第59図 島崎遺跡主要遺構配置図 (1:1800)



写真20 各調査区出土遺物1



5



92



95



96



113



114



115



116



117



118



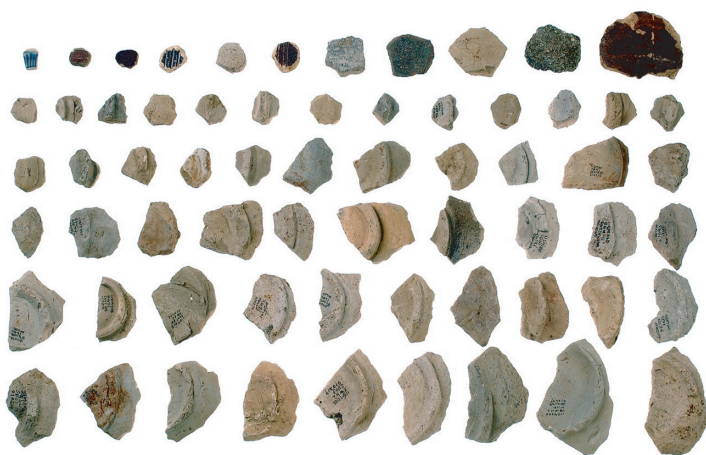
119



120



121



各調査区出土加工円盤

写真21 各調査区出土遺物2

ふりがな	しまぎいせき・でんぼうじほんごういせき・なかのごうきたいせき
書名	島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第139集
編著者名	宮腰健司・鶴飼雅弘・早野浩二・山形秀樹・植田弥生・馬場健司・辻本裕也・藤根 久・長友純子・小村美代子・森 勇一他
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しまぎいせき 島崎遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 しまぎ 島崎	23203	02107	35度 17分 13秒	136度 49分 46秒	20010113 ∩ 20010327	2,000	県道高速 清洲一宮線 建設
でんぼうじほんごう 伝法寺本郷 いせき 遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 たんようちょうでんぼうじ 丹陽町伝法寺	23203	02108	35度 15分 35秒	136度 50分 36秒	20010409 20010530 20010827 20010919	1,600	
なかのごうきた 中之郷北 いせき 遺跡	あいちけんにしがすがいぐん 愛知県西春日井郡 にしはるちうなかのごう 西春町中之郷	23344	19016	35度 14分 37秒	136度 50分 52秒	20011003 ∩ 20020214	2,400	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島崎遺跡	集落	鎌倉～室町 江戸	溝・土坑・井戸 水田	山茶碗・常滑陶器 瀬戸美濃陶磁器 土師器皿・土師器鍋 銭貨・刀子	
伝法寺本郷 遺跡	集落	古墳 奈良～平安 鎌倉～室町 江戸	水田 河川・竪穴住居 溝 畠・水田	土師器 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	奈良時代の集落
中之郷北 遺跡	集落	古墳 飛鳥～奈良 鎌倉～室町 江戸	溝・竪穴住居 河川・竪穴住居 溝 畠・水田	土師器・須恵器・鉄製品 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	土師器の一括資料 古墳～奈良時代の金属 製品製作関連遺物の 出土

文書番号 (島崎遺跡)	発掘届出(12埋セ第173号 12.12.5) 終了届・保管証・発見届(12埋セ第220号 13.3.28)	通知(12教生第216-40号 12.12.25) 鑑査結果通知(12教生第216-40号 13.5.28)
文書番号 (中之郷北遺跡)	発掘届出(12埋セ第208-14号 13.3.16) 終了届・保管証・発見届(13埋セ第101号 13.9.27)	通知(12教生第216-46号 13.3.28) 鑑査結果通知(13教生第216-46号 13.10.11)
文書番号 (伝法寺本郷遺跡)	発掘届出(13埋セ第72号 13.8.24) 終了届・保管証・発見届(13埋セ第169号 14.2.28)	通知(13教生第36-10号 13.9.13) 鑑査結果通知(13教生第36-10号 14.3.27)

要約	島崎遺跡は、鎌倉～室町時代には、遺跡中央部が集落域となり、北東―南西に延びる微高地地形に沿うような、溝・井戸・方形土坑が検出されている。 伝法寺本郷遺跡は、古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代の複合遺跡である。発掘調査の結果、各時代を通じた土地利用の変遷が明らかとなった。 中之郷北遺跡は、古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代の複合遺跡である。発掘調査では各時代の遺構と遺物が層序ごとに連続して検出された。発掘調査の成果は、当地域における地形発達史、土地利用史に資する重要な知見である。 なお、立会調査によって発見された宇福寺遺跡においては、古墳時代の土器を大量に採集した。
----	---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第139集

島 崎 遺 跡
伝 法 寺 本 郷 遺 跡
中 之 郷 北 遺 跡

2006年3月31日

編集発行 財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 西濃印刷株式会社